(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第6791305号
(P6791305)
(45)発行日　令和2年11月25日(2020.11.25)　(24)登録日　令和2年11月9日(2020.11.9)

(51)Int.Cl.　F I
A63F 7/02 (2006.01)　A63F 7/02 334
A63F 7/02 326Z

請求項の数 1　(全 47 頁)

(21)出願番号　特願2019-105497(P2019-105497)
(22)出願日　令和1年6月5日(2019.6.5)
(62)分割の表示　特願2017-248099(P2017-248099)の分割
原出願日　平成20年9月24日(2008.9.24)
(65)公開番号　特開2019-141727(P2019-141727A)
(43)公開日　令和1年8月29日(2019.8.29)
審査請求日　令和1年7月5日(2019.7.5)

(73)特許権者　000144522
株式会社三洋物産
愛知県名古屋市千種区今池３丁目９番２１号
(74)代理人　100093056
弁理士　杉谷　勉
(74)代理人　100142930
弁理士　戸高　弘幸
(72)発明者　吉田　邦彦
名古屋市千種区今池３丁目９番２１号　株式会社　三洋物産内
(72)発明者　野崎　大亮
名古屋市千種区今池３丁目９番２１号　株式会社　三洋物産内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】遊技機

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
第１ケース体と第２ケース体とを合わせて形成される基板収容部に遊技に関する所定の制御を司る制御基板を収容する遊技機用基板収容ケースを備えた遊技機において、
前記遊技機用基板収容ケースは、前記第１ケース体および前記第２ケース体を封止して当該遊技機用基板収容ケースを開封不可とする封止手段を備え、
前記封止手段は、
前記第１ケース体と前記第２ケース体とを合わせた状態で連通形成された係止穴を有する、前記基板収容部とは別に設けられた被封止部と、
前記被封止部の前記係止穴に挿入されて係止される係止部材と、
前記被封止部の前記係止穴に前記係止部材が挿入されて係止された状態にて、前記係止部材が前記係止穴に挿入される方向から充填され、当該被封止部を構成する前記第１ケース体の一部と前記係止部材とが対向し且つ前記第２ケース体の一部と前記係止部材とが対向する箇所に付着した状態で硬化された硬化樹脂と、
を備え、
前記第１ケース体の一部と前記係止部材とが対向する箇所に付着した前記硬化樹脂と、前記第２ケース体の一部と前記係止部材とが対向する箇所に付着した前記硬化樹脂とは、前記対向する方向における前記硬化樹脂の厚みが異なる部分を有し、
前記第１ケース体および前記第２ケース体は、前記基板収容部と前記被封止部とを連結支持する支持部を備え、

前記第１ケース体および前記第２ケース体の支持部の少なくとも一方は、前記被封止部よりも脆弱な脆弱支持部である
ことを特徴とする遊技機。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、パチンコ機、スロットマシン等の遊技機に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、遊技機の代表例として例えばパチンコ機がある。
【０００３】
また、パチンコ機は、その裏面側に、遊技を制御する制御基板を収容した基板ケースを備えている（例えば、特許文献１参照）。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】特開２００５－１５２２９７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
しかしながら、このような構成を有する従来例の場合には、次のような問題がある。
すなわち、従来のパチンコ機では、不正に開封されて不正行為が行われることがあるという問題がある。
【０００６】
本発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、不正行為を低減できる遊技機を提供することを目的とする。
【課題を解決するための手段】
【０００７】
この発明は、このような目的を達成するために、次のような構成をとる。
【０００８】
すなわち、請求項１に記載の発明は、
第１ケース体と第２ケース体とを合わせて形成される基板収容部に遊技に関する所定の制御を司る制御基板を収容する遊技機用基板収容ケースを備えた遊技機において、
前記遊技機用基板収容ケースは、前記第１ケース体および前記第２ケース体を封止して当該遊技機用基板収容ケースを開封不可とする封止手段を備え、
前記封止手段は、
前記第１ケース体と前記第２ケース体とを合わせた状態で連通形成された係止穴を有する、前記基板収容部とは別に設けられた被封止部と、
前記被封止部の前記係止穴に挿入されて係止される係止部材と、
前記被封止部の前記係止穴に前記係止部材が挿入されて係止された状態にて、前記係止部材が前記係止穴に挿入される方向から充填され、当該被封止部を構成する前記第１ケース体の一部と前記係止部材とが対向し且つ前記第２ケース体の一部と前記係止部材とが対向する箇所に付着した状態で硬化された硬化樹脂と、
を備え、
前記第１ケース体の一部と前記係止部材とが対向する箇所に付着した前記硬化樹脂と、前記第２ケース体の一部と前記係止部材とが対向する箇所に付着した前記硬化樹脂とは、前記対向する方向における前記硬化樹脂の厚みが異なる部分を有し、
前記第１ケース体および前記第２ケース体は、前記基板収容部と前記被封止部とを連結支持する支持部を備え、
前記第１ケース体および前記第２ケース体の支持部の少なくとも一方は、前記被封止部

よりも脆弱な脆弱支持部である
ことを特徴とするものである。

【発明の効果】
【０００９】
この発明に係る遊技機によれば、不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。
【図面の簡単な説明】
【００１０】
【図１】実施例１のスロットマシンの前面扉を閉じた状態の斜視図である。
【図２】実施例１のスロットマシンの正面図である。
【図３】前面扉を取り外した状態でのスロットマシンの内部を示す図である。
【図４】前面扉の裏面図である。
【図５】主制御装置が取り付けられた状態の取付台を示す斜視図である。
【図６】取付台と主制御装置の分解斜視図である。
【図７】主制御装置の正面図である。
【図８】（ａ）～（ｆ）は、その順にケース下の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図である。
【図９】（ａ）～（ｆ）は、その順にケース上の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図である。
【図１０】ケース上とケース下の斜視図である。
【図１１】（ａ）～（ｈ）は、その順にかしめピンの上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図、正面右上方から見た斜視図、裏面右上方から見た斜視図である。
【図１２】（ａ）は主制御装置の図７に示したＡ－Ａ線断面図、（ｂ）は主制御装置の図７に示したＢ－Ｂ線断面図である。
【図１３】図１２（ａ）でのかしめピンの挿入前で且つ硬化前樹脂の充填前の状態を示す断面図である。
【図１４】コネクタカバーが取り付けられた主制御装置の正面図である。
【図１５】（ａ）～（ｆ）は、その順にコネクタカバーの上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図である。
【図１６】（ａ）は、コネクタカバーを正面左上方から見た斜視図であり、（ｂ）は、コネクタカバーを正面右上方から見た斜視図である。
【図１７】（ａ）は、主制御装置の図１４に示したＣ－Ｃ線断面図であり、（ｂ）は、（ａ）の主制御装置のコネクタカバーが結束バンドで係止されている状態を示す断面図である。
【図１８】（ａ）～（ｃ）は、その順に結束バンドの正面図、左側面図、裏面図である。
【図１９】（ａ）～（ｇ）は、その順に、実施例２のかしめピンの上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図、正面右上方から見た斜視図である。
【図２０】（ａ）～（ｄ）は、その順に、実施例２の被封止部の正面図、右側面、下面図、正面右上方から見た一部斜視図である。
【図２１】（ａ）～（ｇ）は、その順に、実施例３のかしめピンの上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図、正面右上方から見た斜視図である。
【図２２】（ａ）～（ｄ）は、その順に、実施例３の被封止部の正面図、右側面、下面図、正面右上方から見た一部斜視図である。
【図２３】（ａ）は、実施例３でのかしめピンの挿入係止状態の被封止部の断面図、（ｂ）は、実施例３でのかしめピンを被封止部に挿入する様子を示す斜視図である。
【図２４】（ａ）～（ｇ）は、その順に、実施例４のかしめピンの上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図、正面右上方から見た斜視図である。
【図２５】（ａ）～（ｄ）は、その順に、実施例４の被封止部の正面図、右側面、下面図、正面右上方から見た一部斜視図である。

【図２６】（ａ）は、実施例４でのかしめピンの挿入係止状態の被封止部の断面図、（ｂ）は、実施例４でのかしめピンを被封止部に挿入する様子を示す斜視図である。
【図２７】（ａ），（ｂ）は、変形例でのかしめピンの挿入係止状態の被封止部の断面図である。
【図２８】変形例でのかしめピンの挿入係止状態の被封止部の断面図である。
【図２９】変形例でのかしめピンの斜視図である。
【発明を実施するための形態】
【００１１】
以下、遊技機の一例としてスロットマシンの各種の実施の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。なお、本発明を弾球遊技機の一種であるパチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）、特に、第１種パチンコ遊技機や第３種パチンコ遊技機（権利物とも呼ばれる）、コイン遊技機等の他の遊技機に用いることは、当然に可能である。
【実施例１】
【００１２】
図１は、実施例１のスロットマシン１０の前面扉を閉じた状態の斜視図である。図２は、実施例１のスロットマシン１０の正面図である。図３は、前面扉１２を取り外した状態でのスロットマシン１０の内部を示す図である。図４は、前面扉１２の裏面図である。
【００１３】
本実施例のスロットマシン１０は、図１に示すように、本体１１と、この本体１１の前面側に位置する前面扉１２とを備えている。前面扉１２は、図１，図２に示すように、その左辺を回転軸Ｊ１として、本体１１に回動可能（開閉可能）に取り付けられている。また、スロットマシン１０は、図１，図２に示すように、前面扉１２を閉じた状態で施錠装置２０により前面扉１２と本体１１とを施錠可能となっている。
【００１４】
前面扉１２には、図１，図２に示すように、遊技の進行に伴い点灯したり点滅したりする上部ランプ１３と、遊技の進行に伴い種々の効果音を鳴らしたり遊技者に遊技状態を報知したりするスピーカ１４，１４と、各種表示内容を表示する液晶ディスプレイ１５と、左回胴Ｌと中回胴Ｍと右回胴Ｒ（図３参照）とをそれぞれ透視可能な遊技パネル３０と、略中段付近にて各種ボタン５１，５３～５６，６１，６３やスタートレバー５２やメダル投入口５７が設けられた操作部５０と、機種名や遊技に関わるキャラクタなどが表示された下段表示部１６と、メダル払出口１７から払い出された遊技用媒体としてのメダルを受けるメダル受け皿１８とが装着されている。
【００１５】
また、スロットマシン１０の内部には、図３に示すように、オンされるとスロットマシン１０の各部に電源を供給する電源スイッチ８１を備えている電源ボックス８５や、溢れるメダルの外部への誘導口８９を有し投入されたメダルを貯留する補助タンク８７とこの補助タンク８７内のメダルを払出用通路９２（図４参照）に通じる開口９３（図４参照）を介してメダル払出口１７へ払い出す払出装置８８とから構成されているホッパ８６や、ＣＰＵを中心とするマイクロコンピュータとして構成されており処理プログラムを記憶するＲＯＭや一時的にデータを記憶するＲＡＭや入出力処理回路がバスによって接続されている主制御装置７０や、ＣＰＵを中心とするマイクロコンピュータとして構成されており主制御装置７０からの出力信号による液晶ディスプレイ１５の表示内容の制御を行う表示用制御装置９４（図４参照）が装着されている。なお、この表示用制御装置９４は、図４に示すように、前面扉１２の裏面側の上部箇所に取り付けられている。
【００１６】
遊技パネル３０は、図１に示すように、左回胴Ｌ、中回胴Ｍ、右回胴Ｒ（図３参照）の停止中または回転中の様子を外部に露出する露出窓３１Ｌ，３１Ｍ，３１Ｒを備え、露出窓３１Ｌの左側に配設された５つのベットランプ３２，３３，３３，３４，３４と、この露出窓３１Ｌ，３１Ｍ，３１Ｒの下側に配設されている、スロットマシン内部に貯留されている枚数を表示するものであるクレジット枚数表示部３５と、ビックボーナス時にあと

何回ＪＡＣ（ジャック）インできるかとかＪＡＣゲーム時にあと何回ＪＡＣ図柄成立が残っているかといった回数を表示するものであるゲーム数表示部３６と、有効ライン上に同じ図柄が揃って入賞したときに払い出された枚数を表示するものである払出枚数表示部３７とを備えている。

【００１７】

操作部５０は、図１，図２に示すように、前面扉１２の前面部に設けられたクレジットボタン５１と、スタートレバー５２と、左回胴用ストップボタン５３と、中回胴用ストップボタン５４と、右回胴用ストップボタン５５と、返却ボタン５６と、前面扉１２の水平段部に設けられたメダル投入口５７と、１枚ベットボタン６１と、マックスベットボタン６３とを備えている。

【００１８】

ここで、スロットマシン１０の主制御装置７０およびその取付台１００の構造などについて、図５～図１３を用いて、もう少し詳細に説明する。

【００１９】

図５は、主制御装置７０が取り付けられた状態の取付台１００を示す斜視図である。図６は取付台１００と主制御装置７０の分解斜視図である。図７は主制御装置７０の正面図である。図８（ａ）～（ｆ）は、その順にケース下７２の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図である。図９（ａ）～（ｆ）は、その順にケース上７１の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図である。図１０はケース上７１とケース下７２の斜視図である。図１１（ａ）～（ｈ）は、その順にかしめピン１６０の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図、正面右上方から見た斜視図、裏面右上方から見た斜視図である。図１２（ａ）は主制御装置７０の図７に示したＡ－Ａ線断面図、図１２（ｂ）は主制御装置７０の図７に示したＢ－Ｂ線断面図である。図１３（ａ）は、図１２（ａ）でのかしめピン１６０の挿入前で且つ硬化前樹脂の充填前の状態を示す断面図、図１３（ｂ）は実施例１の封止部材１４０に間隙部を設けた断面図である。

【００２０】

スロットマシン１０は、図３に示すように、その本体１１の内部上方位置に取り付けられた取付台１００に、当該スロットマシン１０の遊技を統括制御する主制御装置７０が取り付けられている。

【００２１】

取付台１００は、図５，図６に示すように、その正面視で横長の長方形状の金属製枠体１１０と、この金属製枠体１１０の下辺側を回動軸として当該金属製枠体１１０に対して回動可能で主制御装置７０が装着される支持枠体１２０とを備えている。この支持枠体１２０は、図６に示すように当該金属製枠体１１０と平行な起立姿勢の状態と、その上辺側が下辺側を回動軸として手前側に前倒し姿勢となった状態（例えば、約６０度前倒しとなった状態）とに回動可能となっている。

【００２２】

具体的には、支持枠体１２０は、図６に示すように、金属製枠体１１０と平行な背面板部１２１と、この背面板部１２１の両側からそれぞれ手前側に突出した左側面部１２２および右側面部１２３と、この左側面部１２２および右側面部１２３の両下端側を結ぶ底面部１２４とを備えており、平面視で有底略コノ字形状に樹脂成型されたものである。

【００２３】

また、金属製枠体１１０は、図６に示すように、その正面視両側に、支持枠体１２０を係止するための係止爪１１１をそれぞれ備えており、前倒し姿勢であった支持枠体１２０を起立姿勢の状態とすることで、支持枠体１２０の両側所定箇所に各係止爪１１１がそれぞれ係止され、支持枠体１２０が起立姿勢状で金属製枠体１１０に保持されるようになっている。

【００２４】

主制御装置７０は、図６に示すように、支持枠体１２０の上部から左側面部１２２および右側面部１２３の間に挿入されて、当該支持枠体１２０に装着されるようになっている

。
【００２５】
主制御装置７０は、図６に示すように、スロットマシン１０の遊技を統括制御する主制御基板７３と、この主制御基板７３を内部に収容する基板ケース７４とを備えている。
【００２６】
基板ケース７４は、主制御基板７３が取り付けられるケース上７１と、このケース上７１での主制御基板７３の取付面側に合わされるケース下７２とを備え、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態での内部空間に主制御基板７３を収容するものである。本実施例では、ケース上７１およびケース下７２は、例えば透明樹脂成型品としている。
【００２７】
この実施例では、主制御基板７３は、図６に示すように、ＩＣ（集積回路）や各種スイッチ部品やコネクタなどの電子部品が実装される実装面を、ケース上７１の内側面に対向させた状態で、ネジなどの締結部品でケース上７１の内側面の所定箇所に取り付けられる。そして、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１にケース下７２を合わせることから、主制御基板７３の半田面は、ケース下７２の内側面に対向した状態となる。
【００２８】
主制御装置７０は、図６に示すように、スロットマシン１０をリセットするときに操作するリセットスイッチ８２や、図示しない設定キーを挿入することにより、スロットマシン１０の設定状態を変更可能にする設定キースイッチ８３を備えている。具体的には、主制御基板７３は、図６に示すように、右端上部箇所に上から順にリセットスイッチ８２と設定キースイッチ８３とを備えており、ケース上７１の右端上部箇所にそれぞれ設けられた開閉蓋７１ａを開いて、リセットスイッチ８２と設定キースイッチ８３とが操作できるようになっている。
【００２９】
基板ケース７４は、図６に示すように、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１でのその主制御基板７３の取付面側にケース下７２を合わせた状態でケース上７１またはケース下７２の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向（本実施例では、例えば基板ケース７４の短手方向）にスライド移動させることでケース上７１とケース下７２とを係止するケース係止部１３０を備えている。
【００３０】
ケース係止部１３０は、図６に示すように、ケース上７１の両辺箇所（短手辺の両箇所）に当該辺方向に並設された破線で示す複数個（本実施例では４個）の鉤状突起部１３１（図６，図９では見えないため破線で示している）と、ケース下７２の両辺箇所（短手辺の両箇所）に当該辺方向に並設された、鉤状突起部１３１とは逆向きに形成された複数個（本実施例では４個）の逆鉤状突起部１３２とを備えるとともに、図６に示すケース上７１の最上の鉤状突起部１３１がケース下７２の一番上の逆鉤状突起部１３２と２番目の逆鉤状突起部１３２との間に位置させるように当該ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態にして、ケース上７１またはケース下７２の少なくとも一方をその短手方向にスライド移動させることで鉤状突起部１３１と逆鉤状突起部１３２とが係止するものである。
【００３１】
また、ケース上７１は、図６，図９（ａ），（ｅ）に示すように、その上面側の所定箇所（例えば３箇所）に嵌合用上部突起７１ｂが形成されている。また、ケース下７２は、図６，図８（ａ）に示すように、その上面側でのケース上７１の嵌合用上部突起７１ｂと対応する３箇所に上部嵌合孔７２ａが形成されている。さらに、ケース上７１は、図９（ｆ）に示すように、その下面側の所定箇所（例えば２箇所）に下部嵌合孔７１ｃが形成されている。また、ケース下７２は、図６，図８（ｃ），（ｅ）に示すように、その下面側でのケース上７１の下部嵌合孔７１ｃと対応する２箇所に嵌合用下部突起７２ｂが形成されている。したがって、基板ケース７４は、図５に示すように、その所定箇所に、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１での主制御基板７３の取付面側にケース下７２を合わせた状態とすると、ケース上７１の上面側の３箇所の嵌合用上部突起７１ｂが、ケー

ス下７２の上面側の３箇所に上部嵌合孔７２ａに嵌合するとともに、ケース上７１の下面側の２箇所の下部嵌合孔７１ｃに、ケース下７２の下面側の２箇所の嵌合用下部突起７２ｂが嵌合する。

【００３２】

さらに、ケース上７１は、図９に示すように、その下面側の中央箇所に支持用下部突起７１ｄが形成されている。また、本体１１の取付台１００の支持枠体１２０は、図６に示すように、その下面側でのケース上７１の支持用下部突起７１ｄに対応する箇所に支持用下部嵌合穴１２５が形成されている。また、ケース下７２は、図６に示すように、その上面側の４箇所に支持用上部嵌合孔７２ｃが形成されている。また、本体１１の取付台１００の支持枠体１２０は、図６に示すように、その上面側でのケース下７２の支持用上部嵌合孔７２ｃに対応する箇所に支持用上部突起１２６が形成されている。また、ケース下７２は、図８（ａ），（ｅ）に示すように、その裏面上部中央箇所に係止用突起７２ｄが形成されている。また、本体１１の取付台１００の支持枠体１２０は、図６に示すように、その上部中央箇所に係止用突起７２ｄを係止するための係止用孔１２７が形成されている。したがって、基板ケース７４は、図５に示すように、取付台１００の支持枠体１２０の上部から挿入されて、当該支持枠体１２０に装着された状態とすると、ケース上７１の下面側の中央箇所の支持用下部突起７１ｄが、支持枠体１２０の下面側の支持用下部嵌合穴１２５に嵌合し、ケース下７２の上面側の４箇所の支持用上部嵌合孔７２ｃに、支持枠体１２０の上面側の支持用上部突起１２６が嵌合するとともに、ケース下７２の裏面上部中央箇所の係止用突起７２ｄが、支持枠体１２０の上部中央箇所の係止用孔１２７に係止される。

【００３３】

さらに、基板ケース７４は、図５～図７に示すように、その所定箇所に、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１での主制御基板７３の取付面側にケース下７２を合わせた状態でケース上７１およびケース下７２を封止して当該基板ケース７４を開封不可とする封止部材１４０を備えている。

【００３４】

この封止部材１４０は、図５～図７に示すように、ケース係止部１３０によって係止状態とされたケース上７１およびケース下７２を開封不可に封止するものである。

【００３５】

また、封止部材１４０は、図５～図７に示すように、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態での所定箇所に連通形成された有底係止穴１５１を有する被封止部１５０と、この被封止部１５０の有底係止穴１５１に挿入されて係止される挿入係止部１６１と当該挿入係止部１６１の挿入後端側に位置する頭部１６２とを有するかしめピン１６０と、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にて当該被封止部１５０でのかしめピン１６０の頭部１６２の箇所に充填して硬化させた硬化樹脂１７０（図１２参照）と、を備えている。

【００３６】

なお、硬化樹脂１７０としては、例えば、紫外線硬化樹脂を採用しているが、熱硬化性樹脂、紫外線以外の光で硬化する樹脂、例えば常温で所定時間放置することで硬化させる自然硬化樹脂などの各種の硬化樹脂を採用してもよい。

【００３７】

本実施例では、図６に示すように、基板ケース７４の下部両側の２箇所に、被封止部１５０が設けられており、各被封止部１５０にかしめピン１６０が挿入されて係止される。

【００３８】

かしめピン１６０の頭部１６２は、図１１に示すように、硬化樹脂１７０により被封止部１５０に接着された脆弱部１６３を備えている。この脆弱部１６３は、かしめピン１６０の挿入方向とは直交する方向に頭部１６２から複数本（本実施例では６本）延出した６本の延出部１６４である。

【００３９】

被封止部１５０は、図５，図１２に示すように、有底係止穴１５１の入口側周囲箇所に、かしめピン１６０が挿入係止された状態での頭部１６２が位置する窪み空間を有するものであって、その窪み空間内に硬化前樹脂が充填される受容凹部１５２を備えている。

【００４０】

被封止部１５０は、図５～図１０に示すように、ケース下７２に設けられた突出部７２ｅと、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態とすることでその突出部７２ｅが挿入される、ケース上７１に設けられた収容穴７１ｈを有する収容部７１ｅと、を備えている。

【００４１】

有底係止穴１５１は、図１３に示すように、突出部７２ｅにその突出方向と直交する方向に貫通形成された貫通孔７２ｆと、突出部７２ｅが収容部７１ｅの収容穴７１ｈに挿入された状態で貫通孔７２ｆの一方の開口側に当該収容部７１ｅに連通形成された挿入穴部７１ｆと、貫通孔７２ｆの他方の開口側に当該収容部７１ｅに連通形成された挿入貫通孔７１ｇとで構成されている。

【００４２】

また、封止部材１４０は、図６，図７および図１２に示すように、ケース上７１およびケース下７２のスライド移動を抑止するように固定するものであり、さらに、ケース上７１およびケース下７２のスライド移動不可状態を解除するべく破壊される、ケース上７１およびケース下７２の所定箇所に形成された固定解除用被破壊部１８０（図８，図９参照）を備えている。

【００４３】

固定解除用被破壊部１８０は、図８（ｃ）に示すようにケース下７２と被封止部１５０とを結ぶ２箇所の連結部１８１と、図９（ｃ）に示すようにケース上７１と被封止部１５０とを結ぶ４箇所の連結部１８１としている。

【００４４】

さらに、基板ケース７４は、図６に示すように、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１での主制御基板７３の取付面側にケース下７２を合わせた状態で、ネジ７５をケース下７２のネジ孔７６に挿入してケース上７１に締結するようになっている。

【００４５】

また、主制御装置７０は、支持枠体１２０に取り付けられた状態で固定するための、封止部材１４０とは別の種類の別封止部材１９０を備えている。この別封止部材１９０は、図６に示すように、基板ケース７４を支持枠体１２０に取り付けた状態での所定箇所に連通形成された別係止穴１９１を有する別被封止部１９２と、この別被封止部１９２の別係止穴１９１に挿入されて係止される二重かしめピン１９３とを備えている。二重かしめピン１９３は、別係止穴１９１に挿入されると当該別係止穴１９１に係止された状態となり、この二重かしめピン１９３を抜くことができないようになっている。したがって、二重かしめピン１９３が別係止穴１９１に挿入されて係止されると、主制御装置７０が指示枠体に固定された状態となり、図６に示すケース上７１の被切断部位を切断して別封止部を分離しない限り、主制御装置７０を支持枠体１２０から抜き出すことができない。

【００４６】

なお、この二重かしめピン１９３に替えて、破断ネジやワンウエイネジを使用するようにして主制御装置７０を支持枠体１２０に固定するようにしてもよい。

【００４７】

なお、上述した主制御基板７３が本発明における制御基板に相当し、上述した基板ケース７４が本発明における遊技機用基板収容ケースに相当し、上述したケース上７１が本発明における第１ケース体に相当し、上述したケース下７２が本発明における第２ケース体に相当し、上述した封止部材１４０が本発明における封止手段に相当し、上述した有底係止穴１５１が本発明における係止穴に相当し、上述したかしめピン１６０が本発明における係止部材に相当し、上述したケース係止部１３０が本発明における係止手段に相当する。

【００４８】
ここで、実施例１の基板ケース７４の封止手順について説明する。
【００４９】
図６に示すように、ケース上７１の内側面の所定箇所に主制御基板７３をネジ留めする。
【００５０】
図６に示すように、ケース上７１の最上の鉤状突起部１３１を、ケース下７２の一番上の逆鉤状突起部１３２と２番目の逆鉤状突起部１３２との間に位置させるようにして、当該ケース上７１とケース下７２とをほぼ合わせた状態にする。
【００５１】
そして、ケース上７１またはケース下７２の少なくとも一方をその短手方向に鉤状突起部１３１の長さ程度にスライド移動させることで、鉤状突起部１３１と逆鉤状突起部１３２とを係止させるとともに、ケース下７２の突出部７２ｅがケース上７１の収容部７１ｅに収容された状態となり、ケース上７１とケース下７２とが完全に合わせた状態となる。また、この状態では、ケース上７１の上面側の３箇所の嵌合用上部突起７１ｂが、ケース下７２の上面側の３箇所に上部嵌合孔７２ａに嵌合するとともに、ケース上７１の下面側の２箇所の下部嵌合孔７１ｃに、ケース下７２の下面側の２箇所の嵌合用下部突起７２ｂが嵌合している。
【００５２】
続いて、図６に示すように、基板ケース７４の下部両側２箇所の被封止部１５０での有底係止穴１５１に、かしめピン１６０がそれぞれ挿入されて係止される。この状態では、封止部材１４０、つまりかしめピン１６０の挿入係止により、ケース上７１およびケース下７２の短手方向へのスライドができない状態に規制されている。
【００５３】
そして、被封止部１５０でのかしめピン１６０の頭部１６２の箇所に硬化前樹脂を充填し、この充填した硬化前樹脂に紫外線を照射して図１２に示すように硬化させる。
【００５４】
続いて、図６に示すように、ネジ７５が、ケース下７２のネジ孔７６に挿入されてケース上７１に締結される。このように、封止部材１４０のみならずこのネジ留めによっても、ケース上７１およびケース下７２をそのスライド移動を抑止するように固定されている。
【００５５】
さらに、このように封止された基板ケース７４、つまり主制御装置７０を、本体１１の内部上方位置に取り付けられた取付台１００に取り付ける。具体的には、取付台１００の金属製枠体１１０に対して支持枠体１２０を前倒し姿勢とした状態で、この支持枠体１２０の上部側から主制御装置７０を挿入して当該支持枠体１２０に装着する。この装着状態では、ケース上７１の下面側の中央箇所の支持用下部突起７１ｄが、支持枠体１２０の下面側の支持用下部嵌合穴１２５に嵌合し、ケース下７２の上面側の４箇所の支持用上部嵌合孔７２ｃに、支持枠体１２０の上面側の支持用上部突起１２６が嵌合するとともに、ケース下７２の裏面上部中央箇所の係止用突起７２ｄが、支持枠体１２０の上部中央箇所の係止用孔１２７に係止された状態となる。
【００５６】
続いて、支持枠体１２０に装着された主制御装置７０の別被封止部１９２の別係止穴１９１に二重かしめピン１９３を挿入することで、この二重かしめピン１９３が支持枠体１２０に係止され、主制御装置７０が支持枠体１２０に固定される。つまり、この固定状態では、図６に示すケース上７１の被切断部位を切断して別封止部を分離しない限り、主制御装置７０を支持枠体１２０から抜き出すことができない。
【００５７】
最後に、このように主制御装置７０が装着固定された支持枠体１２０を、前倒し姿勢状態から起立姿勢状態にすることで、支持枠体１２０が起立姿勢で金属製枠体１１０に係止

され、主制御装置７０が図３に示すように本体１１の内部上方位置に最終的に取り付けられた状態となる。

【００５８】

次に、主制御装置７０のコネクタカバー７７の取付構造などについて、図１４～図１８も用いて、もう少し詳細に説明する。

【００５９】

図１４は、コネクタカバー７７が取り付けられた主制御装置７０の正面図である。図１５（ａ）～（ｆ）は、その順にコネクタカバー７７の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図である。図１６（ａ）は、コネクタカバー７７を正面左上方から見た斜視図であり、図１６（ｂ）は、コネクタカバー７７を正面右上方から見た斜視図である。図１７（ａ）は、主制御装置７０の図１４に示したＣ－Ｃ線断面図であり、図１７（ｂ）は、図１７（ａ）の主制御装置７０のコネクタカバー７７が結束バンド２３０で係止されている状態を示す断面図である。図１８（ａ）～（ｃ）は、その順に結束バンド２３０の正面図、左側面図、裏面図である。

【００６０】

図６に示すように、主制御基板７３は、実装面の左側箇所にレセプタクル７３ａ（コネクタ）が実装されており、このレセプタクル７３ａ（コネクタ）に、他の機器（例えば、カードユニットや表示用制御装置９４）と接続するための図示省略のケーブルのコネクタＣＯが接続されるようになっている。

【００６１】

基板ケース７４を構成するケース上７１は、図６，図７に示すように、主制御基板７３に接続される図示省略のケーブルのコネクタＣＯが挿入可能なコネクタ挿入用開口部７１ｉが形成されている。

【００６２】

また、基板ケース７４のコネクタ挿入用開口部７１ｉの箇所には、図５，図６，図１４に示すように、基板ケース７４内の主制御基板７３に前記の図示省略のケーブルを接続した状態で、当該コネクタＣＯを覆うようにコネクタカバー７７が取り付けられている。

【００６３】

図５に示すように、このコネクタカバー７７には、予め結束バンド２３０が環状にされた係止準備状態に取り付けられている。

【００６４】

図１８に示すように、結束バンド２３０は、係止孔２３１を有する頭部２３２と、この頭部２３２から延出した細長の延出部２３３と、この延出部２３３の長手方向の所定範囲にわたって形成された係止部２３４とを備えるものであり、延出部２３３の先端側を頭部２３２の係止孔２３１に挿入することで係止部２３４が係止孔２３１に係止され、一旦係止されると延出部２３３を係止孔２３１から引き戻し不可な結束具である。この結束バンド２３０は、例えば、ナイロン、ふっ素樹脂、ポリプロピレン、ポリアセタールなどを主原料とする各種のものを採用してもよい。

【００６５】

結束バンド２３０の頭部２３２の係止孔２３１は、その出口側が、頭部２３２での延出部２３３の基端側箇所で、且つ、延出部２３３の基端部の延出方向に向けて開口されたものである。

【００６６】

この頭部２３２の係止孔２３１は、図１８（ｂ）に示すように、延出部２３３の先端側が入れられる入口側である左側から出口側である右側に貫通した貫通孔２３１ａと、例えば鋸歯形状の突起が形成された突起面をこの貫通孔２３１ａ内に向けるように配設された係止片２３１ｂとを備えている。

【００６７】

図１８（ｃ）に示すように、延出部２３３の係止部２３４は、当該延出部２３３の裏面側に設けられており、鋸歯形状の突起が延出部２３３の長手方向の所定範囲（例えば、基

端側と先端側とを除く範囲）にわたって形成されたものである。また、延出部２３３の正面側は、裏面側のような鋸歯形状の突起はなく、図１８（ａ）に示すように平面状となっている。

【００６８】

図１８に示すように、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側が、頭部２３２の係止孔２３１に挿入（図１８（ｂ）に示す状態で左側から右側に抜ける方向に挿入）されると、係止孔２３１では、延出部２３３の裏面側の係止部２３４（鋸歯形状の突起）が係止孔２３１内の係止片２３１ｂの突起面で係止され、一旦係止されると延出部２３３を係止孔２３１から引き戻し不可となっている。

【００６９】

さらに、この結束バンド２３０は、頭部２３２の所定箇所（実施例では、頭部２３２の右側面箇所）に、他の結束バンド２３０と識別するための表示札部２３５が連設されている。表示札部２３５は、結束バンド２３０と同一材料のものであり、結束バンド２３０の成型と同時に当該結束バンド２３０に一体的に形成されている。この表示札部２３５には、生産メーカーの名前や、遊技機の機種名や、識別コードなど各種の識別文字情報や、生産メーカーや遊技機の機種を示すキャラクタなどの図形などの識別表示情報が一体的に形成されたものを採用してもよい。本実施例では、生産メーカーを示す文字である例えば「ＡＡＡ」の識別文字情報が一体的に形成されている。

【００７０】

コネクタカバー７７は、図１４～図１６に示すように、結束バンド２３０が通されて延出部２３３の先端側を係止孔２３１に挿入して当該結束バンド２３０を環状にして係止準備状態で支持（収容）する支持部７８を備えている。

【００７１】

基板ケース７４（正確には、ケース上７１）は、図６，図７，図１０に示すように、結束バンド２３０が支持部７８に係止準備状態とされたコネクタカバー７７の取り付け状態において、当該結束バンド２３０の環状内に位置する鉤状部７１ｊを備えている。

【００７２】

図１７（ｂ）に示すように、結束バンド２３０が支持部７８に係止準備状態とされたコネクタカバー７７を、ケース上７１の所定箇所（コネクタ挿入用開口部７１ｉの箇所）に取り付けた状態において、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を引っ張ることで結束バンド２３０が鉤状部７１ｊに接触して係止した係止状態となる。

【００７３】

コネクタカバー７７の支持部７８は、図５，図１６，図１７（ｂ）に示すように、結束バンド２３０が引っ張られてケース上７１の鉤状部７１ｊに係止した係止状態において、結束バンド２３０の頭部２３２を収容する頭部収容部７９を備えている。

【００７４】

図１７（ｂ）に示すように、コネクタカバー７７の頭部収容部７９は、結束バンド２３０の頭部２３２の係止孔２３１に通された当該結束バンド２３０の延出部２３３のうちで係止孔２３１の出口側付近で切断された後の当該延出部２３３の先端側部分も収容するものである。

【００７５】

コネクタカバー７７の頭部収容部７９は、図５，図１５（ａ），図１６に示すように、結束バンド２３０の頭部２３２を収容する際に、当該頭部２３２に連設された表示札部２３５の基端部２３５ａが入り込む切り欠き部７９ａを、頭部２３２の表示札部２３５に対応する箇所（コネクタカバー７７の上面箇所）に備えている。

【００７６】

コネクタカバー７７の支持部７８は、図１６，図１７に示すように、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側が通されていくことで延出部２３３の先端側を頭部２３２に案内する通路部８０を備えている。この通路部８０は、図１６，図１７に示すように、延出部２３３の先端側を右手前位置から奥方向に案内するための右側通路部８０ａと、この右側

通路部８０ａを通った延出部２３３の先端側を右奥から左横方向に案内するための奥側横通路部８０ｂとを備えている。この奥側横通路部８０ｂを通った延出部２３３の先端側は、頭部収容部７９の近傍、つまり、結束バンド２３０の頭部２３２の近傍に案内された状態となるため、この延出部２３３の先端側を結束バンド２３０の頭部２３２の係止孔２３１に挿入し易くなっている。

【００７７】

コネクタカバー７７は、図１６，図１７に示すように、ケース上７１のコネクタ挿入用開口部７１ｉの箇所に取り付けられて、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を引っ張ることで結束バンド２３０が鉤状部７１ｊに係止した係止状態において、当該結束バンド２３０の被切断対象部分を露出させた露出部７７ａを備えている。

【００７８】

コネクタカバー７７は、図１５，図１６に示すように、ケース上７１のコネクタ挿入用開口部７１ｉの箇所でスライド移動させることで当該ケース上７１と係止保持する係止保持部２４０を備えている。この係止保持部２４０は、コネクタカバー７７の右側の裏面箇所に、縦方向に並設された２個の係止鉤部２４１（図１５（ｄ），図１６（ｂ）参照）と、コネクタカバー７７の下部突出片２４２の正面側に横方向に並設された円形小突起２４３（図１５（ｃ），図１６（ｂ）参照）とを備えている。

【００７９】

コネクタカバー７７がケース上７１のコネクタ挿入用開口部７１ｉの箇所に下方向にスライドして係止保持された状態（図１４の状態）では、コネクタカバー７７の下部突出片２４２は、ケース上７１のコネクタ挿入用開口部７１ｉの下側箇所に設けられた挿入受け部７１ｋ（図１０，図１４参照）に挿入された状態となり、かかる挿入状態では、挿入受け部７１ｋの内側で円形小突起２４３に対応する箇所に形成された円形小凹部（図示省略）に当該円形小突起２４３が緩やかに嵌合するようになっているし、係止鉤部２４１は、ケース上７１のコネクタ挿入用開口部７１ｉの右側の２箇所に設けられた係合孔７１ｍ（図７参照）に係止するようになっている。つまり、図１４に示すように、コネクタカバー７７がケース上７１のコネクタ挿入用開口部７１ｉの箇所にスライドして係止保持された状態では、コネクタカバー７７から手を離したとしても、コネクタカバー７７がケース上７１から外れて落下するようなことがない。

【００８０】

また、コネクタカバー７７は、図１６に示すように、主制御基板７３のレセプタクル７３ａ（コネクタ）に接続された図示省略のケーブルのコネクタＣＯを覆うように前面カバー部７７ｂを備えている。また、コネクタカバー７７は、図１６（ａ）に示すように、その右側に、図示省略のケーブルを位置させるためのケーブル用切り欠き部７７ｃを備えている。図５に示すようにコネクタカバー７７がケース上７１にスライド装着された状態では、主制御基板７３のレセプタクル７３ａ（コネクタ）に接続された図示省略のケーブルのコネクタＣＯを抜こうとしても、当該コネクタＣＯが前面カバー部７７ｂに当たって抜けないようになっており、不正対策に優れる。

【００８１】

また、コネクタカバー７７は、図１５（ｅ）に示すように、その裏面視において、図示省略のケーブルのコネクタＣＯよりも大きく、且つ、その長手方向の長さを取付時のスライド移動を許容する大きさとしており、コネクタＣＯを短手方向にスライドさせる構成とした場合に比べて、コネクタカバー７７が不要に大きくならない。また、コネクタカバー７７は、図１５に示すように、その長手方向の端部側に支持部７８を設けているので、コネクタカバー７７が大きくならずに済む。

【００８２】

なお、上述した基板ケース７４およびケース上７１が本発明における第１部材に相当し、上述したコネクタカバー７７が本発明における第２部材に相当し、上述した鉤状部７１ｊが本発明における被係止部に相当し、上述した係止保持部２４０が本発明における係止保持手段に相当する。

【００８３】
ここで、実施例１の基板ケース７４へのコネクタカバー７７の封印手順について説明する。
【００８４】
まず、図１５，図１６に示すコネクタカバー７７の単体状態において、結束バンド２３０を当該コネクタカバー７７の支持部７８に環状に図１７（ｂ）に破線で示す係止準備状態に取り付ける。
【００８５】
具体的には、図１６（ａ）に示すように、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を、コネクタカバー７７の頭部収容部７９の奥側開口７９ｄから挿入して、頭部収容部７９の手前側開口７９ｅから突き出るようにする。この手前側開口７９ｅは、結束バンド２３０の延出部２３３が挿入可能で頭部２３２よりも小さい開口となっている。
【００８６】
続いて、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を、右側通路部８０ａの手前側左横開口に挿入し、この右側通路部８０ａを通って奥側に進めるように挿入していく。続いて、右側通路部８０ａの奥側に位置する結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を、奥側横通路部８０ｂを通して右奥から左横方向に進めるように挿入していく。
【００８７】
そして、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側が奥側横通路部８０ｂの左側から突き出た状態では、当該結束バンド２３０の頭部２３２の近傍にその延出部２３３の先端側が位置しており、延出部２３３の先端側を頭部２３２の係止孔２３１に挿入することで、当該結束バンド２３０が環状にされた係止準備状態に取り付けられる。この係止準備状態では、頭部２３２の係止孔２３１を通されてた延出部２３３の先端側は、当該延出部２３３の基端側の上に重なった状態で頭部収容部７９に再び通されることになる。
【００８８】
図１７（ｂ）に破線で示すように、結束バンド２３０の環状とした係止準備状態では、収容部７８の３個の外壁部７８ａの内面ＩＳと頭部収容部７９の外壁部７９ｂの内面ＩＳとに結束バンド２３０が当接した状態で支持されている。つまり、収容部７８の３個の外壁部７８ａの内面ＩＳと頭部収容部７９の外壁部７９ｂの内面ＩＳとによって、結束バンド２３０の環状とされた係止準備状態が好適に実現されている。
【００８９】
なお、この係止準備状態では、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側をさらに引っ張ることが可能な状態であるが、これ以上引っ張って結束バンド２３０の環状が小さくなっていまうとコネクタカバー７７の基板ケース７４のスライド装着時に結束バンド２３０が鉤状部７１ｊに引っ掛けることができなくなるため好ましくない。
【００９０】
以上により、コネクタカバー７７には、結束バンド２３０が係止準備状態に取り付けられている。
【００９１】
なお、主制御装置７０は、図３に示すように、スロットマシン１０の本体１１の内部上方位置の取付台１００に取り付けられており、図７に示すようにコネクタカバー７７の取付前状態において、主制御基板７３のレセプタクル７３ａ（コネクタ）に、他の機器（例えば、カードユニットや表示用制御装置９４）と接続するための図示省略のケーブルのコネクタＣＯ（図６参照）が接続されている。
【００９２】
そして、上述の結束バンド２３０が係止準備状態に取り付けられたコネクタカバー７７を、ケース上７１のコネクタ挿入用開口部７１ｉの箇所で下方向にスライドさせて係止保持させる（図１４参照）。図１４では、Ｃ－Ｃ線を図面上に示す理由から、結束バンド２３０の図示を省略している。
【００９３】

この状態では、図１７（ｂ）に破線で示すように、結束バンド２３０の環状の延出部２３３内に鉤状部７１ｊが位置している。

【００９４】

続いて、図１７（ｂ）に示すように、結束バンド２３０が支持部７８に係止準備状態とされたコネクタカバー７７を、ケース上７１の所定箇所（コネクタ挿入用開口部７１ｉの箇所）に取り付けた状態において、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を引っ張ることで結束バンド２３０が鉤状部７１ｊに接触して係止した係止状態（一点鎖線で示す状態）となる。

【００９５】

具体的には、図１７（ｂ）に一点鎖線で示すように、係止状態の結束バンド２３０は、収容部７８の内壁部７８ｂの外面ＯＳと、鉤状部７１ｊと、頭部収容部７９の内壁部７９ｃの外面ＯＳとに当接した結束状態となっている。

【００９６】

続いて、結束バンド２３０の頭部２３２の係止孔２３１から突き出た延出部２３３を工具（例えば、ニッパー）で切断する。図１７（ｂ）に示すように、コネクタカバー７７の頭部収容部７９は、結束バンド２３０の頭部２３２の係止孔２３１に通された当該結束バンド２３０の延出部２３３のうちで係止孔２３１の出口側付近で切断された後の当該延出部２３３の先端側部分も収容している。

【００９７】

また、図５に示すように、結束バンド２３０の頭部２３２の右側面箇所の表示札部２３５の基端部２３５ａが切り欠き部７９ａに入り込んでいる。

【００９８】

こうすることで、基板ケース７４へのコネクタカバー７７の封印が完了する。

【００９９】

なお、コネクタカバー７７の封印を解除したい場合には、結束バンド２３０の被切断対象部分を露出させた露出部７７ａ、つまり、頭部収容部７９と右側通路部８０ａとの間の結束バンド２３０の被切断対象部分を工具（例えば、ニッパー）で切断することで、封印を解除できる。

【０１００】

上述したように、本実施例１のスロットマシン１０によれば、スロットマシン１０の内部に設けられる基板ケース７４と、この基板ケース７４の所定箇所に取り付けられるコネクタカバー７７とを備えている。また、係止孔２３１を有する頭部２３２と当該頭部２３２から延出した細長の延出部２３３と当該延出部２３３の先端側を係止孔２３１に挿入することで係止孔２３１に係止される係止部２３４とを備え、一旦係止されると延出部２３３を係止孔２３１から引き戻し不可な結束バンド２３０を備えている。コネクタカバー７７は、結束バンド２３０が通されて延出部２３３の先端側を係止孔２３１に挿入して当該結束バンド２３０を環状にして係止準備状態で支持する支持部７８を備え、基板ケース７４は、結束バンド２３０が支持部７８に係止準備状態とされたコネクタカバー７７の取り付け状態において、当該結束バンド２３０の環状内に位置する鉤状部７１ｊを備え、結束バンド２３０が支持部７８に係止準備状態とされたコネクタカバー７７を、基板ケース７４の所定箇所に取り付けた状態において、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を引っ張ることで結束バンド２３０が鉤状部７１ｊに係止した係止状態となる。したがって、予め遊技機外で結束バンド２３０をコネクタカバー７７の支持部７８を通して環状にして取り付けて係止準備状態を作ってくことができ、そのコネクタカバー７７を基板ケース７４に取り付けた状態で結束バンド２３０を引っ張ることで基板ケース７４とコネクタカバー７７との封印状態を完成させることができ、遊技機内で結束バンド２３０を基板ケース７４およびコネクタカバー７７の各所定箇所を通して当該結束バンド２３０を環状に取り付ける必要がないことから、作業時に誤って結束バンド２３０を落下させてしまったり、思うように環状にできないなどの作業の煩雑さなどを解消することができる。その結果、結束バンド２３０を使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機を提供

することができる。

【０１０１】

また、コネクタカバー７７の支持部７８は、結束バンド２３０が鉤状部７１ｊに係止した係止状態において当該結束バンド２３０の頭部２３２を収容する頭部収容部７９を備えているので、結束バンド２３０の頭部２３２が頭部収容部７９に収容された状態となっており、結束バンド２３０の頭部２３２への直接のアクセスを不可とすることができ、結束バンド２３０の頭部２３２を不正操作することを低減でき、結束バンド２３０を不正に外すことを低減できる。

【０１０２】

また、コネクタカバー７７の頭部収容部７９は、結束バンド２３０の頭部２３２の係止孔２３１に通された当該結束バンド２３０の延出部２３３のうちで係止孔２３１の出口側付近で切断された後の当該延出部２３３の先端側部分も収容するので、結束バンド２３０の頭部２３２のみならずこの頭部２３２の係止孔２３１の出口側付近で切断された後の当該延出部２３３の先端側部分も頭部収容部７９に収容された状態となっており、結束バンド２３０の頭部２３２および切断後の延出部２３３の先端側部分への直接のアクセスを不可とすることができ、結束バンド２３０の頭部２３２および切断後の延出部２３３の先端側部分を不正操作することを低減でき、結束バンド２３０を不正に外すことを低減できる。

【０１０３】

また、頭部収容部７９は、結束バンド２３０の延出部２３３が挿入可能で頭部２３２よりも小さい手前側開口７９ｅを備えているので、結束バンド２３０の延出部２３３を引っ張ると手前側開口７９ｅに頭部２３２が引っ掛かった状態に規制され、頭部２３２を持つ必要がなく、片手で結束バンド２３０の延出部２３３を引っ張るだけでよく、片手で結束操作することができる。

【０１０４】

また、結束バンド２３０の頭部２３２の係止孔２３１は、その出口側が、頭部２３２での延出部２３３の基端側箇所で、且つ、延出部２３３の基端部の延出方向に向けて開口されたものとしているので、結束バンド２３０の頭部２３２の係止孔２３１に通された当該結束バンド２３０の延出部２３３の先端側部分がその延出部２３３の基端側上に重なって沿わせることができ、つまり、延出部２３３の基端側の方向と略並行に当該延出部２３３の先端側が突き出るようになっており、結束バンド２３０の頭部２３２の高さ方向に延出部２３３の先端側が突き出てしまうことでかさ高くなるようなことがない。したがって、結束バンド２３０の頭部２３２を小型化することができ、コネクタカバー７７の頭部収容部７９も小型化することができる。

【０１０５】

また、結束バンド２３０は、頭部２３２の所定箇所に、他の結束バンド２３０と識別するための表示札部２３５が連設されているので、正規の結束バンド２３０を不正に切断して不正な結束バンド２３０にすり替えて結束したとしても、不正な結束バンド２３０の頭部２３２には表示札部２３５が無いため、不正な結束バンド２３０が使用されていることが目視によってわかることから、結束バンド２３０を不正に外すことを低減でき、結束バンド２３０に対する不正行為を低減することができる。

【０１０６】

また、表示札部２３５は、結束バンド２３０の頭部２３２の側面箇所に連設されている。コネクタカバー７７の頭部収容部７９は、結束バンド２３０の頭部２３２を収容する際に、当該頭部２３２の表示札部２３５の基端部２３５ａが入り込む切り欠き部７９ａを、頭部２３２の表示札部２３５に対応する箇所に備えているので、結束バンド２３０の頭部２３２をコネクタカバー７７の頭部収容部７９に収容する際に、結束バンド２３０の表示札部２３５の基端部２３５ａが頭部収容部７９の切り欠き部７９ａに沿って入り込んでいくことができ、頭部収容部７９を表示札部２３５も収容する大きさにする必要がなく、頭部収容部７９を小型化することができる。また、頭部収容部７９の切り欠き部７９ａの切

欠き方向が結束バンド２３０の延出部２３３の引き方向に設けられており、切り欠き部７９ａの奥部が延出部２３３の引き方向側に設けられているので、当該延出部２３３を引っ張るときに表示札部２３５の基端部２３５ａが切り欠き部７９ａに入り込んでこの切り欠き部７９ａの奥部で基端部２３５ａを固定することができる。

【０１０７】

また、コネクタカバー７７の支持部７８は、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側が通されていくことで延出部２３３の先端側を頭部２３２に案内する通路部８０を備えているので、通路部８０に結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を通していくだけで、結束バンド２３０を環状に近づけた状態とすることができ、その延出部２３３の先端側を頭部２３２に挿入することで結束バンド２３０を環状とすることができ、結束バンド２３０を容易に係止準備状態とすることができる。

【０１０８】

また、コネクタカバー７７は、第１部材の所定箇所に取り付けられて、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を引っ張ることで結束バンド２３０が鉤状部７１ｊに係止した係止状態において、当該結束バンド２３０の被切断対象部分を露出させた露出部７７ａを備えているので、結束バンド２３０の被切断対象部分を切断し易くなっている。

【０１０９】

また、コネクタカバー７７を第１部材の所定箇所でスライド移動させることで、係止保持部２４０によりコネクタカバー７７が第１部材に係止保持されるので、この係止保持状態では、作業者は、コネクタカバー７７から手を離してもよく、結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を引っ張ることに専念でき、このように結束バンド２３０の延出部２３３の先端側を引っ張ることで結束バンド２３０を鉤状部７１ｊに係止させた係止状態とすることができる。

【０１１０】

また、遊技機についての所定の遊技に関する制御を司る主制御基板７３を内部に収容する基板ケース７４を備えた遊技機において、基板ケース７４は、ケース上７１と、このケース上７１と合わされるケース下７２とを備え、基板ケース７４は、その所定箇所に、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１でのその主制御基板７３の取付面側にケース下７２を合わせた状態でケース上７１およびケース下７２を封止して当該基板ケース７４を開封不可とする封止部材１４０を備え、この封止部材１４０は、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態での所定箇所に連通形成された有底係止穴１５１を有する被封止部１５０と、この被封止部１５０の有底係止穴１５１に挿入されて係止される挿入係止部１６１と当該挿入係止部１６１の挿入後端側に位置する頭部１６２とを有するかしめピン１６０と、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にて当該被封止部１５０でのかしめピン１６０の頭部１６２の箇所に充填して硬化させた硬化樹脂１７０と、を備え、かしめピン１６０の頭部１６２は、硬化樹脂１７０により被封止部１５０に接着された脆弱部１６３を備えている。したがって、例えば、封止部材１４０の硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂１７０の不正な除去に伴ってかしめピン１６０の頭部１６２の脆弱部１６３が破壊され、その除去した硬化樹脂１７０と一緒に脆弱部１６３が取れてしまうので、この脆弱部１６３が取れたかしめピン１６０を不正に再使用しても、そのかしめピン１６０の頭部１６２の脆弱部１６３の破損を見ることで、基板ケース７４が開封されたことがわかる。その結果、スロットマシン１０に取り付けられた基板ケース７４の開封を低減できるし、いわゆる二個一で基板ケース７４を不正に作ること（二個の基板ケース７４から無傷のケース上７１とケース下７２とを取り出して一個の基盤ケース７４を作ること）を低減できることから、不正行為を低減できるスロットマシン（遊技機）を提供することができる。

【０１１１】

また、被封止部１５０は有底係止穴１５１を採用しているので、この被封止部１５０の裏側（つまり、被封止部１５０での有底係止穴１５１の存する側とは反対側）からのアクセスを不可とすることができる。

【０１１２】
また、被封止部１５０での有底係止穴１５１の入口側周囲箇所に設けられた受容凹部１５２は、その窪み空間内に、かしめピン１６０が挿入係止された状態での当該かしめピン１６０の頭部１６２を位置させた状態で、その窪み空間に硬化前樹脂が充填されて硬化されるので、受容凹部１５２の窪み空間内に頭部１６２を位置させた状態で硬化樹脂１７０で覆うことができ、窪み空間の硬化樹脂１７０を不正に除去することが困難であり、硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂１７０の不正な除去に伴ってかしめピン１６０の頭部１６２の脆弱部１６３が破壊され、その除去した硬化樹脂１７０と一緒に脆弱部１６３が取れてしまうので、この脆弱部１６３が取れたかしめピン１６０を不正に再使用しても、そのかしめピン１６０の頭部１６２の脆弱部１６３の破損を見ることで、基板ケース７４が開封されたことがわかる。その結果、不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。
【０１１３】
また、脆弱部１６３は、かしめピン１６０の挿入方向とは直交する方向に頭部１６２から複数本延出した複数本の延出部１６４としているので、その複数本の延出部１６４の表面積の分だけ、頭部１６２の硬化樹脂１７０への接着面積を拡大することができ、その拡大した分、頭部１６２と硬化樹脂１７０との接着力が向上するので、硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂１７０の不正な除去に伴ってかしめピン１６０の頭部１６２の複数本の延出部１６４のうちのいずれかの延出部１６４が破壊され、その除去した硬化樹脂１７０と一緒に一部の延出部１６４が取れてしまうことになり、この延出部１６４が取れたかしめピン１６０を不正に再使用しても、そのかしめピン１６０の頭部１６２の延出部１６４の破損を見ることで、基板ケース７４が開封されたことがわかる。
【０１１４】
また、被封止部１５０は、ケース下７２に設けられた突出部７２ｅと、ケース上７１に設けられた、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態とすることで突出部７２ｅが挿入される収容部７１ｅと、を備え、有底係止穴１５１は、突出部７２ｅにその突出方向と直交する方向に貫通形成された貫通孔７２ｆと、突出部７２ｅが収容部７１ｅに挿入された状態で貫通孔７２ｆの一方の開口側に当該収容部７１ｅに連通形成された挿入穴部７１ｆと、貫通孔７２ｆの他方の開口側に当該収容部７１ｅに連通形成された挿入貫通孔７１ｇとで構成されている。したがって、封止部材１４０の存する箇所での当該ケース上７１とケース下７２との境界面ＢＬが収容部７１ｅで囲われているので、当該境界面ＢＬに不正な細状部材の挿入を困難とすることができ、当該境界面ＢＬに不正な細状部材を挿入して封止部材１４０の存する箇所でのケース上７１とケース下７２とを引き離すことを困難とすることができる。また、収容部７１ｅ以外でのケース上７１とケース下７２との境目に不正な細状部材を挿入したとしても、突出部７２ｅの突出方向に力がかかるだけで、当該境界面ＢＬを離す方向つまりかしめピン１６０が抜ける方向には力がかからないので、収容部７１ｅ以外でのケース上７１とケース下７２との境目に無理矢理に不正な細状部材を挿入したとしても、封止部材１４０の封止解除できない。その結果、不正開封を低減できる基板ケース７４を用いた遊技機を提供することができる。
【０１１５】
また、基板ケース７４のケース係止部１３０は、主制御基板７３が取り付けられたケース上７１でのその主制御基板７３の取付面側にケース下７２を合わせた状態でケース上７１またはケース下７２の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることで、ケース上７１とケース下７２とを係止する。封止部材１４０は、ケース係止部１３０によって係止状態とされたケース上７１およびケース下７２を開封不可に封止する。したがって、封止部材１４０によってケース上７１およびケース下７２が開封不可に封止されているので、基板ケース７４が不正に開封されることを低減できる。また、この封止状態では、ケース係止部１３０によってケース上７１およびケース下７２がスライド係止されており、ケース上７１およびケース下７２をスライド方向に直交する対向方向に開ける

ことができず、基板ケース７４が不正に開封されることを低減できる。

【０１１６】

また、基板ケース７４のケース係止部１３０は、ケース上７１の短手辺の両箇所に当該辺方向に並設された破線で示す４個の鉤状突起部１３１（図６，図９では見えないため破線で示している）と、ケース下７２の短手辺の両箇所に当該辺方向に並設された、鉤状突起部１３１とは逆向きに形成された４個の逆鉤状突起部１３２とを備えるとともに、ケース上７１またはケース下７２の少なくとも一方をスライド移動させることで鉤状突起部１３１と逆鉤状突起部１３２とが係止するので、封止部材１４０によってケース上７１およびケース下７２が開封不可に封止された封止状態では、ケース上７１またはケース下７２の両辺で所定長さに亘って配置された複数個の鉤状突起部１３１および逆鉤状突起部１３２でスライド係止されており、細状の不正具をケース上７１とケース下７２との間に挿し入れるなどしてケース上７１とケース下７２との間に隙間を開けたり、ケース上７１およびケース下７２を開けたりすることを低減でき、基板ケース７４が不正に隙間形成や開封されることを低減できる。

【０１１７】

また、封止部材１４０は、ケース上７１およびケース下７２を、そのスライド移動を抑止するように固定する。さらに、この封止部材１４０の固定解除用被破壊部１８０が破壊されると、ケース上７１およびケース下７２のスライド移動不可状態が解除される。したがって、固定解除用被破壊部１８０の破壊痕を見ることで、基板ケース７４が開封されたことがわかる。

【０１１８】

なお、基板ケース７４が取付台１００から取り外された単体状態では、図８に示すようにケース下７２の２箇所の固定解除用被破壊部１８０を破断することで、基板ケース７４が開封可能（ケース上７１およびケース下７２のスライド移動が可能）となる。また、基板ケース７４が取付台１００に取り付けられた状態では、図８に示すケース下７２の２箇所の固定解除用被破壊部１８０に直接アクセスすることはできず、図９に示すように手前に位置するケース上７１の上側２箇所の固定解除用被破壊部１８０を破断することで、ようやく、奥側に位置するケース下７２の２箇所の固定解除用被破壊部１８０に直接アクセスして切断することができる。

【０１１９】

また、固定解除用被破壊部１８０は、ケース上７１またはケース下７２と封止部材１４０とを結ぶ連結部１８１としているので、連結部１８１を破断することで、ケース上７１とケース下７２との相対的なスライド移動を可能とすることができ、ケース上７１とケース下７２とを開封できる。なお、封止部材１４０がケース上７１またはケース下７２の方に残ったままであるため、当該破断痕によって開封があったことがわかる。

【０１２０】

また、図９に示すように、ケース上７１の下側２箇所の連結部１８１は、切断破壊するのではなく、支持部として使用できる。このように、ケース上７１の下側２箇所の連結部１８１を支持部として使用した場合には、ケース上７１の上側２箇所の連結部１８１およびケース下７２の２箇所の連結部１８１が切断されても、封止部材１４０がスロットマシン１０内に落下することを防止できる。

【０１２１】

また、図１３（ｂ）に示すように、かしめピン１６０のピン長さを長くすることで、頭部１６２の挿入側面とケース下７２の突出部７２ｅの貫通孔７２ｆの周囲箇所とを所定の間隔を空けた間隙部２００を設けるようにしてもよい。この場合には、封止部材１４０は、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にて当該かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間に所定の間隙が形成された間隙部２００と、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にて当該被封止部１５０でのかしめピン１６０の頭部１６２の箇所に充填して間隙部２００にも回り込むようにした状態で硬化させた硬化樹脂１７０とを備えているので

、被封止部１５０とかしめピン１６０の頭部１６２とを、つまり、ケース上７１またはケース下７２とかしめピン１６０とを硬化樹脂１７０で接着することができる。また、かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間の間隙部２００にも硬化樹脂１７０が回り込んで接着されているので、例えば、封止部材１４０の硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとしても、かしめピン１６０の頭部１６２の表側（手前側）の硬化樹脂１７０の除去に時間がかかるし、このかしめピン１６０の頭部１６２の裏側（奥側）つまり間隙部２００に回り込んだ硬化樹脂１７０は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、しかも間隙部２００の硬化樹脂１７０でかしめピン１６０と被封止部１５０とが接着された状態を維持しており、かしめピン１６０を取り外すことが困難である。したがって、基板ケース７４を不正に開封することが困難である。その結果、不正行為を低減できるスロットマシン（遊技機）を提供することができる。

【０１２２】

なお、図１２（ａ）に示すように、かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間であって当該頭部１６２の一部よりも挿入方向先端側に形成された所定の隙間（間隙部２００に相当する）にも硬化樹脂１７０が回り込んで接着されているので、回り込んだ硬化樹脂１７０は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、しかも間隙部２００の硬化樹脂１７０でかしめピン１６０と被封止部１５０とが接着された状態を維持しており、かしめピン１６０を取り外すことが困難である。

【実施例２】

【０１２３】

次に、実施例２のスロットマシン１０の基板ケース７４について図１９，図２０を用いて説明する。

【０１２４】

図１９（ａ）～（ｇ）は、その順に、実施例２のかしめピン１６０の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図、正面右上方から見た斜視図である。図２０（ａ）～（ｄ）は、その順に、実施例２の被封止部１５０の正面図、右側面、下面図、正面右上方から見た一部斜視図である。

【０１２５】

この実施例２は、前述の実施例１のかしめピン１６０の頭部１６２および有底係止穴１５１の一部が異なっている。具体的には、実施例２のかしめピン１６０は、図１９，図２０に示すように、その頭部１６２から放射状に８本の延出部１６４を備えるとともに、頭部１６２の表面に複数本（本実施例では３本）の溝部１６５が形成されており、これらの８本の延出部１６４が脆弱部１６３である点、実施例２の被封止部１５０の有底係止穴１５１が正面視で円形とし、且つ、その入口近くの内周箇所に内周突起部１５３を備えている点が、前述の実施例１とは異なっている。よって、前述の実施例１と異なる構成について以下に詳細に説明することとし、実施例１と同様の構成についてはここでの説明を省略する。

【０１２６】

実施例２のかしめピン１６０は、図１９に示すように、正面視で円形の頭部１６２から放射状に８本の延出部１６４が形成されている。さらに、このかしめピン１６０は、図１９に示すように、その頭部１６２の表面側に例えば３本の平行な直線状に溝部１６５が形成されている。この溝部１６５は、図１９（ａ），（ｆ），（ｇ）に示すように、断面視でＶ字状形状となっている。この実施例２のかしめピン１６０の頭部１６２以外の部分、つまり、挿入係止部１６１は、実施例１のかしめピン１６０と同様の構造となっている。

【０１２７】

続いて、実施例２の被封止部１５０は、図２０に示すように、その有底係止穴１５１が正面視で円形となっており、さらに、その入口近くの内周箇所であって、周方向に沿った例えば５箇所に、突き出た５個の内周突起部１５３を備えている。この実施例２では、内

周突起部１５３は、かしめピン１６０の頭部１６２の延出部１６４と接触しない程度の突出長さとしている。つまり、内周突起部１５３の先端と延出部１６４の先端とが所定の間隔を空けて位置するようにしている。また、有底係止穴１５１は、前述の実施例１と同様に、その入口側から順に、ケース上７１の挿入貫通孔７１ｇと、ケース下７２の突出部７２ｅの貫通孔７２ｆと、ケース上７１の挿入穴部７１ｆとで構成されており、ケース上７１の挿入貫通孔７１ｇの径がケース下７２の突出部７２ｅの貫通孔７２ｆの径よりも大きくなっているため、各内周突起部１５３の間はケース下７２の一部（突出部７２ｅの貫通孔７２ｆの周囲一部分）が露出した状態となっており、このケース下７２の一部（突出部７２ｅの貫通孔７２ｆの周囲一部分）に後述の硬化樹脂１７０が付着することになる。

【０１２８】

なお、内周突起部１５３を内歯車のような突起形状とし、延出部１６４を外歯車のような突起形状とし、かしめピン１６０が有底係止穴１５１に挿入係止された状態で、内歯車状の内周突起部１５３と外歯車状の延出部１６４とがかみあうような形状としてもよい。

【０１２９】

図２０に示すように、かしめピン１６０が有底係止穴１５１に挿入係止された状態では、かしめピン１６０の頭部１６２が受容凹部１５２内に位置している。この状態にて、前述の実施例１と同様に、硬化前樹脂を受容凹部１５２に充填し、硬化前樹脂に紫外線を照射して硬化させる。硬化樹脂１７０は、かしめピン１６０の頭部１６２の溝部１６５にも入った状態で硬化しているし、有底係止穴１５１の入口近くの５個の内周突起部１５３での各内周突起部１５３の間や、内周突起部１５３と延出部１６４との間にも入った状態で硬化している。硬化樹脂１７０によって、有底係止穴１５１とかしめピン１６０とが接着される。つまり、ケース上７１とケース下７２とかしめピン１６０とが接着される。

【０１３０】

上述したように、本実施例２のスロットマシン１０によれば、被封止部１５０の有底係止穴１５１の内周突起部１５３の表面積の分も、有底係止穴１５１の硬化樹脂１７０への接着面積を拡大することができ、その拡大した分、有底係止穴１５１と硬化樹脂１７０との接着力がさらに向上するし、かしめピン１６０の頭部１６２の溝部１６５の表面積の分も、頭部１６２の硬化樹脂１７０への接着面積を拡大することができ、その拡大した分、頭部１６２と硬化樹脂１７０との接着力がさらに向上するし、その溝部１６５で延出部１６４が破断し易くなっているので、硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂１７０の不正な除去に伴ってかしめピン１６０の頭部１６２の延出部１６４が切り欠き溝部１６５で破断して、その除去した硬化樹脂１７０と一緒に延出部１６４が取れてしまうので、この延出部１６４が破断したかしめピン１６０を不正に再使用しても、そのかしめピン１６０の頭部１６２の延出部１６４の破断を見ることで、基板ケース７４が開封されたことがわかる。

【０１３１】

また、硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂１７０の不正な除去に伴って有底係止穴１５１の内周突起部１５３が破断して、その除去した硬化樹脂１７０と一緒に内周突起部１５３が取れてしまうので、有底係止穴１５１の内周突起部１５３の破断を見ることで、基板ケース７４が開封されたことがわかる。

【実施例３】

【０１３２】

次に、実施例３のスロットマシン１０の基板ケース７４について図２１～図２３を用いて説明する。

【０１３３】

図２１（ａ）～（ｇ）は、その順に、実施例３のかしめピン１６０の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図、正面右上方から見た斜視図である。図２２（ａ）～（ｄ）は、その順に、実施例３の被封止部１５０の正面図、右側面、下面図、正面右上方から見た一部斜視図である。図２３（ａ）は、実施例３でのかしめピン１６０の挿入係止状態の被封止部１５０の断面図、図２３（ｂ）は、実施例３でのかしめピン１６０を被

封止部１５０に挿入する様子を示す斜視図である。

【０１３４】

この実施例３は、前述の実施例１，２のかしめピン１６０の頭部１６２および有底係止穴１５１の一部が異なっている。具体的には、実施例３のかしめピン１６０は、図２１，図２２に示すように、前述の実施例１，２の延出部１６４や実施例２の溝部１６５を有さず、その頭部１６２は、その表側面に、硬化前樹脂が充填される受け皿部１６６を備え、この受け皿部１６６は、かしめピン１６０の挿入方向視した状態で挿入係止部１６１よりも外側の一部箇所に、当該頭部１６２の挿入側面に貫通した流入孔１６７を備えている点、実施例３の被封止部１５０の有底係止穴１５１が前述の実施例２と同様に正面視で円形とし、実施例２の内周突起部１５３を備えていない点が、前述の実施例１，２とは異なっている。なお、実施例１，２と同様の構成についてはここでの説明を省略する。

【０１３５】

実施例３のかしめピン１６０は、図２１に示すように、その頭部１６２の表側面に、硬化前樹脂が充填される凹状の受け皿部１６６を備えている。この受け皿部１６６は、図２１（ｃ），（ｅ）に示すように、かしめピン１６０の挿入方向視した状態で挿入係止部１６１よりも外側の一部箇所に、当該頭部１６２の挿入側面に貫通した流入孔１６７を備えている。

【０１３６】

図２３（ｂ）に示すように、実施例３のかしめピン１６０を被封止部１５０の有底係止穴１５１に挿入すると、図２２，図２３（ａ）に示すように、かしめピン１６０の挿入係止部１６１が有底係止穴１５１に係止される。具体的には、図２３（ａ）に示すように、かしめピン１６０の挿入係止部１６１が有底係止穴１５１の奥側であるケース上７１の挿入穴部７１ｆに係止される。

【０１３７】

図２３（ａ）に示すように、ケース上７１の挿入貫通孔７１ｇは、かしめピン１６０の挿入係止部１６１よりも径が大きくなっており、ケース下７２の突出部７２ｅの貫通孔７２ｆは、挿入貫通孔７１ｇよりも直径が小さくなっている。また　図２３（ａ）に示すように、ケース上７１の挿入穴部７１ｆは、かしめピン１６０の先端側が挿入されており、かしめピン１６０の挿入係止部１６１は、ケース下７２の突出部７２ｅの貫通孔７２ｆでの奥側貫通開口の周囲部位に係止されている。

【０１３８】

さらに、図２３（ａ）に示すように、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態において、かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間には、所定の間隙である間隙部２００が形成されている。この実施例３では、ケース上７１の挿入貫通孔７１ｇの径を、かしめピン１６０の挿入係止部１６１よりも大きく、且つ、かしめピン１６０の頭部１６２の径よりも小さくすることで、頭部１６２とケース下７２の貫通孔７２ｆの周囲箇所との間に前記の間隙部２００を形成している。この間隙部２００は、受容凹部１５２の窪み面とかしめピン１６０の頭部１６２の挿入側面との間に空けられた間隙である。

【０１３９】

図２３（ａ）に示すように、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態において、当該被封止部１５０でのかしめピン１６０の頭部１６２の箇所、つまり、かしめピン１６０の頭部１６２の受け皿部１６６に硬化前樹脂を充填すると、この受け皿部１６６の流入孔１６７を通じて硬化前樹脂が間隙部２００に入り込んでおり、この状態で紫外線を照射することで、間隙部２００にも回り込むようにした状態で硬化樹脂１７０が硬化している。

【０１４０】

上述したように、本実施例３のスロットマシン１０によれば、封止部材１４０は、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にて当該かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間に所定の間隙が形成された間隙部２

００と、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にて当該被封止部１５０でのかしめピン１６０の頭部１６２の箇所に充填して間隙部２００にも回り込むようにした状態で硬化させた硬化樹脂１７０とを備えているので、被封止部１５０とかしめピン１６０の頭部１６２とを、つまり、ケース上７１またはケース下７２とかしめピン１６０とを硬化樹脂１７０で接着することができる。また、かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間の間隙部２００にも硬化樹脂１７０が回り込んで接着されているので、例えば、封止部材１４０の硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとしても、かしめピン１６０の頭部１６２の表側（手前側）の硬化樹脂１７０の除去に時間がかかるし、このかしめピン１６０の頭部１６２の裏側（奥側）つまり間隙部２００に回り込んだ硬化樹脂１７０は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、しかも間隙部２００の硬化樹脂１７０でかしめピン１６０と被封止部１５０とが接着された状態を維持しており、かしめピン１６０を取り外すことが困難である。したがって、基板ケース７４を不正に開封することが困難である。その結果、不正行為を低減できるスロットマシン（遊技機）を提供することができる。

【０１４１】

また、被封止部１５０での有底係止穴１５１の入口側周囲箇所に設けられた受容凹部１５２は、その窪み空間内に、かしめピン１６０が挿入係止された状態での当該かしめピン１６０の頭部１６２を位置させた状態で、その窪み空間に硬化前樹脂が充填されて硬化されるので、受容凹部１５２の窪み空間内に頭部１６２を位置させた状態で硬化樹脂１７０で覆うことができ、窪み空間の硬化樹脂１７０を不正に除去することが困難である。また、間隙部２００は、受容凹部１５２の窪み面とかしめピン１６０の頭部１６２の挿入側面との間に空けられた所定の間隙であるので、受容凹部１５２の窪み面とかしめピン１６０の頭部１６２の挿入側面との間の間隙部２００にも硬化樹脂１７０が回り込んで接着させることができ、例えば、封止部材１４０の硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとしても、受容凹部１５２におけるかしめピン１６０の頭部１６２の挿入面側（裏側）つまり間隙部２００に回り込んだ硬化樹脂１７０は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、しかも受容凹部１５２における間隙部２００の硬化樹脂１７０でかしめピン１６０と被封止部１５０とが接着された状態を維持しており、かしめピン１６０を取り外すことが困難である。したがって、基板ケース７４を不正に開封することが困難である。その結果、不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０１４２】

かしめピン１６０の頭部１６２は、その表側面に、硬化前樹脂が充填される受け皿部１６６を備えている。この受け皿部１６６は、かしめピン１６０の挿入方向視した状態で挿入係止部１６１よりも外側の一部箇所に、当該頭部１６２の挿入側面に貫通した流入孔１６７を備えている。したがって、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態において、このかしめピン１６０の頭部１６２の受け皿部１６６に硬化前樹脂を充填することで、硬化前樹脂が受け皿部１６６の流入孔１６７を通じて頭部１６２の挿入側面の方に流入して間隙部２００に回り込み易くでき、受容凹部１５２の窪み面とかしめピン１６０の頭部１６２の挿入側面との間の間隙部２００にも硬化樹脂１７０が回り込んで接着させることができ、間隙部２００に回り込んだ硬化樹脂１７０は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、不正行為を低減できる。

【０１４３】

また、有底係止穴１５１は、挿入貫通孔７１ｇと突出部７２ｅの貫通孔７２ｆと挿入穴部７１ｆとで構成されている。挿入貫通孔７１ｇは、かしめピン１６０の挿入係止部１６１の存する挿入部分よりも径が大きく、突出部７２ｅの貫通孔７２ｆは、挿入貫通孔７１ｇよりも直径が小さくなっている。したがって、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にてこの被封止部１５０でのかしめピン１６０

の頭部１６２に充填した硬化前樹脂は、挿入貫通孔７１ｇとかしめピン１６０との隙間にも流入してケース上７１とケース下７２とかしめピン１６０とに接触した状態とすることができ、挿入貫通孔７１ｇとかしめピン１６０との隙間の硬化前樹脂に紫外光が当たり易く硬化させ易くできる。硬化樹脂１７０はケース上７１とケース下７２とかしめピン１６０との３部材とを接着することができ、有底係止穴１５１の挿入貫通孔７１ｇにまで入り込んだ硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、不正行為を低減できる。

【実施例４】

【０１４４】

次に、実施例４のスロットマシン１０の基板ケース７４について図２４～図２６を用いて説明する。

【０１４５】

図２４（ａ）～（ｇ）は、その順に、実施例４のかしめピン１６０の上面図、左側面図、正面図、右側面図、裏面図、下面図、正面右上方から見た斜視図である。図２５（ａ）～（ｄ）は、その順に、実施例４の被封止部１５０の正面図、右側面、下面図、正面右上方から見た一部斜視図である。図２６（ａ）は、実施例４でのかしめピン１６０の挿入係止状態の被封止部１５０の断面図、図２６（ｂ）は、実施例４でのかしめピン１６０を被封止部１５０に挿入する様子を示す斜視図である。

【０１４６】

この実施例４は、前述の実施例１～３のかしめピン１６０の頭部１６２および有底係止穴１５１の一部が異なっている。具体的には、実施例４のかしめピン１６０は、図２４，図２５に示すように、その頭部１６２の表面側に、前述の実施例３の受け皿部１６６を有さず、頭部１６２の挿入面側と受容凹部１５２の窪み面との間に間隙部２００を有している点、実施例４の被封止部１５０の有底係止穴１５１が前述の実施例２，３と同様に正面視で円形とし、実施例２の内周突起部１５３を備えておらず、受容凹部１５２の奥側がスロープ状となっている点が、前述の実施例１～３とは異なっている。なお、実施例１～３と同様の構成についてはここでの説明を省略する。

【０１４７】

実施例４の受容凹部１５２は、その開口径がかしめピン１６０の頭部１６２の径よりも十分に大きくなっており、図２５（ｄ）に示すように、かしめピン１６０の頭部１６２と受容凹部１５２との間に硬化前樹脂を充填し易くなっており、図２６（ａ）に示すように、かしめピン１６０の挿入面側に硬化前樹脂が入り込み易くなっている。

【０１４８】

図２６（ｂ）に示すように、実施例４のかしめピン１６０を被封止部１５０の有底係止穴１５１に挿入すると、図２５，図２６（ａ）に示すように、かしめピン１６０の挿入係止部１６１が有底係止穴１５１に係止される。具体的には、図２６（ａ）に示すように、かしめピン１６０の挿入係止部１６１が有底係止穴１５１の奥側であるケース上７１の挿入穴部７１ｆに係止される。

【０１４９】

図２６（ａ）に示すように、ケース上７１の挿入貫通孔７１ｇは、かしめピン１６０の挿入係止部１６１よりも径が大きくなっており、ケース下７２の突出部７２ｅの貫通孔７２ｆは、挿入貫通孔７１ｇよりも直径が小さくなっている。また　図２６（ａ）に示すように、ケース上７１の挿入穴部７１ｆは、かしめピン１６０の先端側が挿入されており、かしめピン１６０の挿入係止部１６１は、ケース下７２の突出部７２ｅの貫通孔７２ｆでの奥側貫通開口の周囲部位に係止されている。

【０１５０】

さらに、図２６（ａ）に示すように、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態において、かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間には、所定の間隙である間隙部２００が形成されている。この実施例４では、ケース上７１の挿入貫通孔７１ｇの径を、かしめピン１６０の頭部１６２の径よりも大きくし、かしめピン１６０のピン長さを長くすることで、かしめピン１６０の頭部１６２の

挿入面側とケース下７２の貫通孔７２ｆの周囲箇所との間に前記の間隙部２００を形成している。この間隙部２００は、受容凹部１５２の窪み面とかしめピン１６０の頭部１６２の挿入側面との間に空けられた間隙である。

【０１５１】

図２６（ａ）に示すように、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態において、当該被封止部１５０でのかしめピン１６０の頭部１６２の箇所、つまり、受容凹部１５２に硬化前樹脂を充填すると、硬化前樹脂が間隙部２００に入り込んでおり、この状態で紫外線を照射することで、間隙部２００にも回り込むようにした状態で硬化樹脂１７０が硬化している。

【０１５２】

上述したように、本実施例４のスロットマシン１０によれば、封止部材１４０は、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にて当該かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間に所定の間隙が形成された間隙部２００と、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にて当該被封止部１５０でのかしめピン１６０の頭部１６２の箇所に充填して間隙部２００にも回り込むようにした状態で硬化させた硬化樹脂１７０とを備えているので、被封止部１５０とかしめピン１６０の頭部１６２とを、つまり、ケース上７１またはケース下７２とかしめピン１６０とを硬化樹脂１７０で接着することができる。また、かしめピン１６０の頭部１６２と被封止部１５０との間の間隙部２００にも硬化樹脂１７０が回り込んで接着されているので、例えば、封止部材１４０の硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとしても、かしめピン１６０の頭部１６２の表側（手前側）の硬化樹脂１７０の除去に時間がかかるし、このかしめピン１６０の頭部１６２の裏側（奥側）つまり間隙部２００に回り込んだ硬化樹脂１７０は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、しかも間隙部２００の硬化樹脂１７０でかしめピン１６０と被封止部１５０とが接着された状態を維持しており、かしめピン１６０を取り外すことが困難である。したがって、基板ケース７４を不正に開封することが困難である。その結果、不正行為を低減できるスロットマシン（遊技機）を提供することができる。

【０１５３】

また、被封止部１５０での有底係止穴１５１の入口側周囲箇所に設けられた受容凹部１５２は、その窪み空間内に、かしめピン１６０が挿入係止された状態での当該かしめピン１６０の頭部１６２を位置させた状態で、その窪み空間に硬化前樹脂が充填されて硬化されるので、受容凹部１５２の窪み空間内に頭部１６２を位置させた状態で硬化樹脂１７０で覆うことができ、窪み空間の硬化樹脂１７０を不正に除去することが困難である。また、間隙部２００は、受容凹部１５２の窪み面とかしめピン１６０の頭部１６２の挿入側面との間に空けられた所定の間隙であるので、受容凹部１５２の窪み面とかしめピン１６０の頭部１６２の挿入側面との間の間隙部２００にも硬化樹脂１７０が回り込んで接着させることができ、例えば、封止部材１４０の硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとしても、受容凹部１５２におけるかしめピン１６０の頭部１６２の挿入面側（裏側）つまり間隙部２００に回り込んだ硬化樹脂１７０は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、しかも受容凹部１５２における間隙部２００の硬化樹脂１７０でかしめピン１６０と被封止部１５０とが接着された状態を維持しており、かしめピン１６０を取り外すことが困難である。したがって、基板ケース７４を不正に開封することが困難である。その結果、不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０１５４】

この発明は、上記実施形態に限られることはなく、同様の効果を奏する別の構成としてもよく、例えば下記のように変形実施することができる。

【０１５５】

＜１＞上述した各実施例では、第２部材としてコネクタカバー７７を例に挙げて説明し

ているが、かしめカバー（例えば、封止部材１４０をカバーするもの）や、スイッチ（例えば、設定キースイッチ８３など）をカバーするスイッチカバーなどの各種の被包部材あるいは被覆部材を採用してもよい。

【０１５６】

＜２＞上述した各実施例では、第１部材として基板ケース７４を例に挙げて説明しているが、主制御基板７３以外の制御基板（例えば、表示用制御基板など）を収容する基板ケースや電源装置（電源ボックス８３）など、各種の基板や装置を収容するケースを採用してもよい。

【０１５７】

＜３＞上述した実施例１では、図５に示すように、結束バンド２３０の頭部２３２の右側面箇所の表示札部２３５の基端部２３５ａが切り欠き部７９ａに入り込んでいるが、表示札部２３５の一部が切り欠き部７９ａに入り込むようにしてもよい。

【０１５８】

＜４＞上述した各実施例では、主制御基板７３の電子部品実装面を、ケース上７１の内側面に対向させた状態で当該ケース上７１の内側面に取り付けているが、主制御基板７３の半田面をケース上７１に対向させて取り付けるようにしてもよい。また、主制御基板７３をケース上７１に取り付けているがケース下７２に取り付けるようにしてもよいし、ケース下７２の内側面に主制御基板７３の電子部品実装面を対向させて取り付けるようにしてもよいし、半田面を対向させて取り付けるようにしてもよい。

【０１５９】

＜５＞図２７（ａ），（ｂ）に示すように、ケース上７１は、封止部材１４０の存する箇所での当該ケース上７１とケース下７２との境界面ＢＬを囲う囲い壁２１０を備えるようにしてもよい。この場合には、ケース上７１の囲い壁２１０によって、封止部材１４０の存する箇所での当該ケース上７１とケース下７２との境界面ＢＬが囲われているので、当該境界面ＢＬに不正な細状部材の挿入を困難とすることができ、当該境界面ＢＬに不正な細状部材を挿入して封止手段の存する箇所でのケース上７１とケース下７２とを引き離すことを困難とすることができる。また、ケース上７１の囲い壁２１０と、この囲い壁２１０を有しない方のケース下７２との境目に不正な細状部材を挿入したとしても、囲い壁２１０を反らす方向に力がかかるだけで、当該境界面ＢＬを離す方向つまりかしめピン１６０が抜ける方向には力がかからないので、囲い壁２１０に沿って無理矢理に不正な細状部材を挿入したとしても、封止部材１４０の封止解除できない。その結果、不正開封を低減できる基板ケース７４を用いた遊技機を提供することができる。また、ケース下７２に囲い壁２１０を設けた場合も同様の効果を有する。

【０１６０】

＜６＞図２８に示すように、有底係止穴１５１は、ケース上７１に形成された、かしめピン１６０の挿入係止部１６１よりも径の大きい貫通孔部２２０と、ケース下７２に形成されて貫通孔部２２０よりも直径が小さく且つ挿入係止部１６１を係止する奥側穴部２２１とを連通形成した二段穴としてもよい。この場合では、被封止部１５０の有底係止穴１５１にかしめピン１６０を挿入して係止させた状態にてこの被封止部１５０の受容凹部１５２に充填した硬化前樹脂は、貫通孔部２２０と挿入係止部１６１との間にも流入してケース上７１とケース下７２とかしめピン１６０とに接触した状態で硬化させることができ、硬化樹脂１７０はケース上７１とケース下７２とかしめピン１６０との３部材とを接着することができ、有底係止穴１５１の貫通孔部２２０にまで入り込んだ硬化樹脂１７０を除去することはさらに困難であり、不正行為を低減できる。

【０１６１】

＜７＞上述した各実施例のケース上７１およびケース下７２は両者を合わせた状態でその少なくとも一方をスライド移動させることで、ケース上７１およびケース下７２が閉塞した状態となる構成を採用しているが、スライド無しの嵌め合わせ構造や、回動軸を軸心として回動式で組み合わせる構成などを採用してもよい。

【０１６２】

＜８＞図２９に示すように、かしめピン１６０の頭部１６２の延出部１６４の基端側に切り欠き溝部１６８を備えるようにしてもよい。また、図２９では、切り欠き溝部１６８を、頭部１６２の挿入面側で延出部１６４の基端側に形成しているが、切り欠き溝部１６８を、頭部１６２の表面側で延出部１６４の基端側に形成してもよい。また、実施例２～４のかしめピン１６０の頭部１６２の延出部１６４の基端側に切り欠き溝部１６８を備えるようにしてもよい。この場合には、延出部１６４は、その基端側に切り欠き溝部１６８を備えているので、さらに、延出部１６４の切り欠き溝部１６８の表面積の分も、頭部１６２の硬化樹脂１７０への接着面積を拡大することができ、その拡大した分、頭部１６２と硬化樹脂１７０との接着力がさらに向上するし、その切り欠き溝部１６８で延出部１６４が破断し易くなっているので、より破断し易い脆弱部１６３を形成することができるし、硬化樹脂１７０を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂１７０の不正な除去に伴ってかしめピン１６０の頭部１６２の延出部１６４が切り欠き溝部１６８で破断して、その除去した硬化樹脂１７０と一緒に延出部１６４が取れてしまうので、この延出部１６４が破断したかしめピン１６０を不正に再使用しても、そのかしめピン１６０の頭部１６２の延出部１６４の破断を見ることで、基板ケース７４が開封されたことがわかる。

【０１６３】

＜９＞上述した実施例２のかしめピン１６０の頭部１６２の表面側に溝部１６５を設けていた（図１９参照）が、この溝部１６５を設けないようにしてもよい。

【０１６４】

＜１０＞上述した各実施例では、固定解除用被破壊部１８０は所定箇所を切断工具で切断破壊されるものとしているが、例えば、固定解除用被破壊部１８０の肉厚を他の箇所と比べて薄くし、かかる固定解除用被破壊部１８０を押下することで破断するものとしてもよい。

【０１６５】

＜１１＞上述した各実施例では、第１部材としての基板ケース７４をスロットマシン１０の内部に設けられた例に挙げて説明しているが、基板ケース７４を外部に設けたり、スロットマシン１０以外の遊技機の内部や外部に設けたりしてもよい。

【０１６６】

＜１２＞上述した各実施例では、基板ケース７４は、ケース上７１とケース下７２とを合わせた状態でその内部空間に主制御基板７３を収納するものとしているが、例えば、ケース上７１に主制御基板７３を取り付けた後に、ケース上７１の主制御基板７３の取付面側を他の部材で覆い、さらにこの他の部材の少なくとも一部をケース下７２で覆い、ケース上７１およびケース下７２を封止部材１４０で封止して当該基板ケース７４を開封不可とするようにしてもよい。

【０１６７】

＜１３＞上述した各実施例では、係止穴として有底係止穴１５１を採用しているが、底無し係止穴を採用してもよい。

【０１６８】

＜１４＞上述した各実施例では、封止部材１４０は、基板ケース７４の封止（かしめ）に用いているが、封止部材１４０を基板ケース７４と取付台１００との封止（かしめ）に用いてもよいし、種々の部品の封止（かしめ）に用いてもよい。例えば、流通過程や遊技場（ホール）などで不正に交換や不正改造などがされたら困る部品としては、払出装置やスタートレバーやストップスイッチなどが挙げられる。

【０１６９】

＜１５＞上述した実施例では、本発明を各種（例えば第一種、第三種など）の遊技機に実施してもよいし、上記実施例とは異なるタイプのパチンコ機等に実施してもよい。例えば、一度大当たりすると、それを含めて複数回（例えば２回、３回）大当たり状態が発生するまで、大当たり期待値が高められるようなパチンコ機（通称、２回権利物、３回権利物と称される。）として実施してもよい。また、大当たり図柄が表示された後に、所定の

領域に球を入賞されることを必要条件として特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。また、球が所定の入賞口に入ることで特別遊技状態となるパチンコ機として実施してもよい。さらに、パチンコ機以外にも、アレンジボール型パチンコ、雀球、いわゆるパチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機等の各種遊技機として実施するようにしてもよい。

【０１７０】

なお、パチンコ機とスロットマシンとが融合した遊技機の具体例としては、複数の図柄からなる図柄列を変動表示した後に図柄を確定表示する可変表示手段を備えており、球打出用のハンドルを備えていないものが挙げられる。この場合、所定の操作（ボタン操作）に基づく所定量の遊技球の投入後、例えば操作レバーの操作に起因して図柄の変動が開始され、例えばストップボタンの操作に起因して、あるいは、所定時間経過することにより、図柄の変動が停止され、その停止時の確定図柄がいわゆる大当たり図柄であることを必要条件として遊技者に有利な大当たり状態が発生させられ、遊技者には、下部の受け皿に多量の球が払い出されるものである。

【０１７１】

なお、本明細書は、次のような遊技機に係る発明も開示している。

従来、遊技機の代表例として例えばパチンコ機がある。このパチンコ機は、例えば、当該パチンコ機の外殻を形成し遊技場（ホール）の遊技島に固定される外枠と、この外枠の正面視での左端側を開閉軸として外枠に対して開閉可能に支持される内枠と、この内枠の略中央に形成された開口に遊技領域が位置するように取り付けられる遊技盤と、この内枠の正面視での左端側を開閉軸として内枠に対して開閉可能に支持され、遊技領域を視認するための視認窓を有する前面扉とを備えている。

また、パチンコ機は、その裏面側に、遊技を制御する制御基板を収容した基板ケースを備えている。この基板ケースは、その内部に制御基板を被包して収容するためのベース部とカバー部とを備えている。また、この基板ケースには、このケースを封止するための封止機構を備えている。この封止機構は所定箇所を破壊しない限り開封できない構造となっており、その封止機構を破壊してケースを開封した場合には、封止機構の破壊に基づいて開封（正規開封、不正開封の種類を問わず）の有無が確認でき、不正開封防止が図られている（例えば、特開２００５－１５２２９７号公報参照）。

しかしながら、このような構成を有する従来例の場合には、次のような問題がある。

すなわち、従来のパチンコ機では、例えば、前述の基板ケースの所定箇所には、内部の制御基板に接続されるケーブルのコネクタが挿入可能なコネクタ挿入用開口部が形成されており、基板ケース内の制御基板にケーブルを接続した状態で、当該コネクタを覆うようにコネクタカバーを取り付け、さらに、このコネクタカバーと基板ケースとを結束バンドで結束することで封印している。こうすることで、コネクタカバーを取り外さない限り基板ケースに接続されたケーブルは取り外すことができないようになっており、しかも、コネクタカバーで覆われているため、基板ケースのコネクタ挿入用開口部の隙間から不正な細状部材（例えば、針金）などが挿入されることを低減している。

しかしながら、コネクタカバーと基板ケースとを結束バンドで結束する取り付け作業時には、狭い遊技機内で結束バンドをコネクタカバーおよび基板ケースの各所定箇所を通した上で環状にして結束しなければならないため、作業性が悪いという問題がある。

下記（０）及び（００）発明は、このような事情に鑑みてなされたものであって、結束バンドを使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機を提供することを目的とする。

（０）　遊技者に遊技を提供する遊技機において、

当該遊技機に設けられる第１部材と、

前記第１部材の所定箇所に取り付けられる第２部材と、

係止孔を有する頭部と前記頭部から延出した延出部と前記延出部の先端側を前記係止孔に挿入することで前記係止孔に係止される係止部とを備え、一旦係止されると前記延出部を前記係止孔から引き戻し不可な結束バンドと、

を備え、
前記第２部材は、前記結束バンドが通されて前記延出部の先端側を前記係止孔に挿入して当該結束バンドを環状にして係止準備状態で支持する支持部を備え、
前記第１部材は、前記結束バンドが前記支持部に係止準備状態とされた前記第２部材の取り付け状態において、当該結束バンドの環状内に位置する被係止部を備え、
前記結束バンドが前記支持部に係止準備状態とされた前記第２部材を、前記第１部材の所定箇所に取り付けた状態において、前記結束バンドの前記延出部の先端側を引っ張ることで前記結束バンドが前記被係止部に係止した係止状態となる
ことを特徴とする遊技機。
【０１７２】
前記（０）に記載の発明によれば、遊技者に遊技を提供する遊技機には、第１部材が設けられ、この第１部材の所定箇所には、第２部材が取り付けられる。結束バンドは、係止孔を有する頭部と、この頭部から延出した延出部と、この延出部の先端側を係止孔に挿入することで当該係止孔に係止される係止部とを備えており、一旦係止されると延出部を係止孔から引き戻し不可となっている。この第２部材は、結束バンドが通されて延出部の先端側を係止孔に挿入して当該結束バンドを環状にして係止準備状態で支持する支持部を備えている。また、第１部材は、結束バンドが支持部に係止準備状態とされた第２部材の取り付け状態において、当該結束バンドの環状内に位置する被係止部を備えている。そして、結束バンドが支持部に係止準備状態とされた第２部材を、第１部材の所定箇所に取り付けた状態において、結束バンドの延出部の先端側を引っ張ることで結束バンドが被係止部に係止した係止状態となる。したがって、予め遊技機外で結束バンドを第２部材の支持部を通して環状にして取り付けて係止準備状態を作ってくことができ、その第２部材を第１部材に取り付けた状態で結束バンドを引っ張ることで第１部材と第２部材との封印状態を完成させることができ、遊技機内で結束バンドを第１部材および第２部材の各所定箇所を通して当該結束バンドを環状に取り付ける必要がないことから、作業時に誤って結束バンドを落下させてしまったり、思うように環状にできないなどの作業の煩雑さなどを解消することができる。その結果、結束バンドを使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機を提供することができる。
【０１７３】
（００）　遊技者に遊技を提供する遊技機において、
当該遊技機に設けられる第１部材と、
前記第１部材の所定箇所に取り付けられる第２部材と、
係止孔を有する頭部と前記頭部から延出した延出部と前記延出部の先端側を前記係止孔に挿入することで前記係止孔に係止される係止部とを備え、一旦係止されると前記延出部を前記係止孔から引き戻し不可な結束バンドと、
を備え、
前記第２部材は、前記結束バンドが通されて前記延出部の先端側を前記係止孔に挿入して当該結束バンドを環状にして係止準備状態で支持するとともに、前記係止準備状態よりも小さい環状にした係止状態でも当該結束バンドを支持する支持部を備え、
前記第１部材は、前記結束バンドが前記支持部に係止準備状態とされた前記第２部材の取り付け状態において、当該結束バンドの環状内に位置する被係止部を備え、
前記第２部材は、前記結束バンドの前記係止準備状態の場合には前記第１部材に対して取り付け移動可能であり、前記結束バンドの前記係止状態の場合には、前記結束バンドによって前記第１部材に対して移動不可に固定され、
前記結束バンドは、当該結束バンドが前記係止準備状態とされた前記第２部材を、前記第１部材の所定箇所に取り付けた状態において、前記結束バンドの前記延出部の先端側を引っ張ることで、初期状態において最終係止状態に比べて大きな環状とした前記係止準備状態よりも小さな環状とした前記係止状態で前記被係止部に係止される
ことを特徴とする遊技機。
前記（００）に記載の発明によれば、遊技者に遊技を提供する遊技機には、第１部材が

設けられ、この第１部材の所定箇所には、第２部材が取り付けられる。結束バンドは、係止孔を有する頭部と、この頭部から延出した延出部と、この延出部の先端側を係止孔に挿入することで当該係止孔に係止される係止部とを備えており、一旦係止されると延出部を係止孔から引き戻し不可となっている。この第２部材は、結束バンドが通されて延出部の先端側を係止孔に挿入して当該結束バンドを環状にして係止準備状態で支持するとともに、係止準備状態よりも小さい環状にした係止状態でも当該結束バンドを支持する支持部を備えている。第１部材は、結束バンドが支持部に係止準備状態とされた第２部材の取り付け状態において、当該結束バンドの環状内に位置する被係止部を備えている。第２部材は、結束バンドの係止準備状態の場合には第１部材に対して取り付け移動可能であり、結束バンドの係止状態の場合には、結束バンドによって第１部材に対して移動不可に固定される。結束バンドは、当該結束バンドが係止準備状態とされた第２部材を、第１部材の所定箇所に取り付けた状態において、結束バンドの延出部の先端側を引っ張ることで、初期状態において最終係止状態に比べて大きな環状とした係止準備状態よりも小さな環状とした係止状態で被係止部に係止される。したがって、予め遊技機外で結束バンドを第２部材の支持部を通して環状にして取り付けて係止準備状態を作って支持しておくことができ、その第２部材を第１部材に取り付けた状態で結束バンドを引っ張ることで第１部材と第２部材との封印状態を完成させることができ、遊技機内で結束バンドを第１部材および第２部材の各所定箇所を通して当該結束バンドを環状に取り付ける必要がないことから、作業時に誤って結束バンドを落下させてしまったり、思うように環状にできないなどの作業の煩雑さなどを解消することができる。その結果、結束バンドを使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機を提供することができる。

【０１７４】

この発明に係る遊技機によれば、予め遊技機外で結束バンドを第２部材の支持部を通して環状にして取り付けて係止準備状態を作ってくことができ、その第２部材を第１部材に取り付けた状態で結束バンドを引っ張ることで第１部材と第２部材との封印状態を完成させることができ、遊技機内で結束バンドを第１部材および第２部材の各所定箇所を通して当該結束バンドを環状に取り付ける必要がないことから、作業時に誤って結束バンドを落下させてしまったり、思うように環状にできないなどの作業の煩雑さなどを解消することができる。その結果、結束バンドを使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機を提供することができる。

【０１７５】

（１）　前記（０）に記載の遊技機において、

前記第１部材は、当該遊技機の所定の遊技を制御する制御基板を内部に収容する遊技機用基板収容ケースであり、

前記遊技機用基板収容ケースは、前記制御基板に接続されるケーブルのコネクタが挿入可能なコネクタ挿入用開口部が形成されており、

前記第２部材は、前記遊技機用基板収容ケース内の前記制御基板に前記ケーブルを接続した状態で、当該コネクタを覆うように当該遊技機用基板収容ケースに取り付けられるコネクタカバーである

ことを特徴とする遊技機。

【０１７６】

前記（１）に記載の発明によれば、第１部材は、当該遊技機の所定の遊技を制御する制御基板を内部に収容する遊技機用基板収容ケースとしている。遊技機用基板収容ケースは、制御基板に接続されるケーブルのコネクタが挿入可能なコネクタ挿入用開口部が形成されている。第２部材は、遊技機用基板収容ケース内の制御基板にケーブルを接続した状態で、当該コネクタを覆うように当該遊技機用基板収容ケースに取り付けられるコネクタカバーとしている。したがって、予め遊技機外で結束バンドをコネクタカバーの支持部を通して環状にして取り付けて係止準備状態を作ってくことができ、そのコネクタカバーを遊技機用基板収容ケースに取り付けた状態で結束バンドを引っ張ることで遊技機用基板収容ケースとコネクタカバーとの封印状態を完成させることができ、遊技機内で結束バンドを

遊技機用基板収容ケースおよびコネクタカバーの各所定箇所を通して当該結束バンドを環状に取り付ける必要がないことから、作業時に誤って結束バンドを落下させてしまったり、思うように環状にできないなどの作業の煩雑さなどを解消することができる。その結果、結束バンドを使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機を提供することができる。

【０１７７】

（２）　前記（０）に記載の遊技機、または、前記（１）に記載の遊技機において、

前記第２部材の前記支持部は、前記係止状態において前記結束バンドの前記頭部を収容する頭部収容部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０１７８】

前記（２）に記載の発明によれば、第２部材の支持部は、結束バンドが被係止部に係止した係止状態において当該結束バンドの頭部を収容する頭部収容部を備えているので、結束バンドの頭部が頭部収容部に収容された状態となっており、結束バンドの頭部への直接のアクセスを不可とすることができ、結束バンドの頭部を不正操作することを低減でき、結束バンドを不正に外すことを低減できる。

【０１７９】

（３）　前記（２）に記載の遊技機において、

前記第２部材の前記頭部収容部は、前記結束バンドの前記延出部が挿入可能で前記頭部よりも小さい開口部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０１８０】

前記（３）に記載の発明によれば、第２部材の頭部収容部は、結束バンドの延出部が挿入可能で頭部よりも小さい開口部を備えているので、結束バンドの延出部を引っ張ると開口部に頭部が引っ掛かった状態に規制され、頭部を持つ必要がなく、片手で結束バンドの延出部を引っ張るだけでよく、片手で結束操作することができる。

【０１８１】

（４）　前記（３）に記載の遊技機において、

前記第２部材の前記頭部収容部は、前記結束バンドの前記頭部の前記係止孔に通された当該結束バンドの前記延出部のうちで前記係止孔の出口側付近で切断された後の当該延出部の先端側部分も収容する

ことを特徴とする遊技機。

【０１８２】

前記（４）に記載の発明によれば、第２部材の頭部収容部は、結束バンドの頭部の係止孔に通された当該結束バンドの延出部のうちで係止孔の出口側付近で切断された後の当該延出部の先端側部分も収容するので、結束バンドの頭部のみならずこの頭部の係止孔の出口側付近で切断された後の当該延出部の先端側部分も頭部収容部に収容された状態となっており、結束バンドの頭部および切断後の延出部の先端側部分への直接のアクセスを不可とすることができ、結束バンドの頭部および切断後の延出部の先端側部分を不正操作することを低減でき、結束バンドを不正に外すことを低減できる。

【０１８３】

（５）　前記（４）に記載の遊技機において、

前記結束バンドの前記頭部の前記係止孔は、その出口側が、前記頭部での前記延出部の基端側箇所で、且つ、前記延出部の基端部の延出方向に向けて開口されたものである

ことを特徴とする遊技機。

【０１８４】

前記（５）に記載の発明によれば、結束バンドの頭部の係止孔は、その出口側が、頭部での延出部の基端側箇所で、且つ、延出部の基端部の延出方向に向けて開口されたものとしているので、結束バンドの頭部の係止孔に通された当該結束バンドの延出部の先端側部分がその延出部の基端側上に重なって沿わせることができ、つまり、延出部の基端側の方

向と略並行に当該延出部の先端側が突き出るようになっており、結束バンドの頭部の高さ方向に延出部の先端側が突き出てしまうことでかさ高くなるようなことがない。したがって、結束バンドの頭部を小型化することができ、第２部材の頭部収容部も小型化することができる。

【０１８５】

（６）　前記（２）から（５）のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記結束バンドは、前記頭部の所定箇所に、他の結束バンドと識別するための表示札部が連設されている

ことを特徴とする遊技機。

【０１８６】

前記（６）に記載の発明によれば、結束バンドは、頭部の所定箇所に、他の結束バンドと識別するための表示札部が連設されているので、正規の結束バンドを不正に切断して不正な結束バンドにすり替えて結束したとしても、不正な結束バンドの頭部には表示札部が無いため、不正な結束バンドが使用されていることが目視によってわかることから、結束バンドを不正に外すことを低減でき、結束バンドに対する不正行為を低減することができる。

【０１８７】

（７）　前記（６）に記載の遊技機において、

前記表示札部は、前記結束バンドの前記頭部の側面箇所に連設され、

前記第２部材の前記頭部収容部は、前記結束バンドの前記頭部を収容する際に、当該頭部の前記表示札部またはその基端部を逃がす切り欠き部を、前記頭部の前記表示札部に対応する箇所に備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０１８８】

前記（７）に記載の発明によれば、表示札部は、結束バンドの頭部の側面箇所に連設されている。第２部材の頭部収容部は、結束バンドの頭部を収容する際に、当該頭部の表示札部またはその基端部を逃がす切り欠き部を、頭部の表示札部に対応する箇所に備えているので、結束バンドの頭部を第２部材の頭部収容部に収容する際に、結束バンドの表示札部またはその基端部が頭部収容部の切り欠き部に沿って入っていくことで逃がすことができ、頭部収容部を表示札部も収容する大きさにする必要がなく、頭部収容部を小型化することができる。

【０１８９】

（８）　前記（０）に記載の遊技機、または、前記（１）から（７）のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記第２部材の前記支持部は、前記結束バンドの前記延出部の先端側が通されていくことで前記延出部の先端側を前記頭部に案内する通路部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０１９０】

前記（８）に記載の発明によれば、第２部材の支持部は、結束バンドの延出部の先端側が通されていくことで延出部の先端側を頭部に案内する通路部を備えているので、通路部に結束バンドの延出部の先端側を通していくだけで、結束バンドを環状に近づけた状態とすることができ、その延出部の先端側を頭部に挿入することで結束バンドを環状とすることができ、結束バンドを容易に係止準備状態とすることができる。

【０１９１】

（９）　前記（０）に記載の遊技機、または、前記（１）から（８）のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記第２部材は、前記第１部材の所定箇所に取り付けられて、前記結束バンドの前記延出部の先端側を引っ張ることで前記結束バンドが前記被係止部に係止した係止状態において、当該結束バンドの被切断対象部分を露出させた露出部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０１９２】
前記（９）に記載の発明によれば、第２部材は、第１部材の所定箇所に取り付けられて、結束バンドの延出部の先端側を引っ張ることで結束バンドが被係止部に係止した係止状態において、当該結束バンドの被切断対象部分を露出させた露出部を備えているので、結束バンドの被切断対象部分を切断し易くなっている。
【０１９３】
（１０）　前記（０）に記載の遊技機、または、前記（１）から（９）のいずれか一つに記載の遊技機において、
前記第２部材は、前記第１部材の所定箇所でスライド移動させることで当該第１部材と係止保持する係止保持手段を備えている
ことを特徴とする遊技機。
【０１９４】
前記（１０）に記載の発明によれば、第２部材を第１部材の所定箇所でスライド移動させることで、係止保持手段により第２部材が第１部材に係止保持されるので、この係止保持状態では、作業者は、第２部材から手を離してもよく、結束バンドの延出部の先端側を引っ張ることに専念でき、このように結束バンドの延出部の先端側を引っ張ることで結束バンドを被係止部に係止させた係止状態とすることができる。
【０１９５】
また、本明細書は、次のような遊技機に係る発明も開示している。
【０１９６】
（１１）　遊技機についての所定の遊技に関する制御を司る制御基板を内部に収容する遊技機用基板収容ケースを備えた遊技機において、
前記遊技機用基板収容ケースは、第１ケース体と、前記第１ケース体と合わされる第２ケース体とを備え、
前記遊技機用基板収容ケースは、その所定箇所に、前記制御基板が取り付けられた前記第１ケース体でのその制御基板取付面側に前記第２ケース体を合わせた状態で前記第１ケース体および前記第２ケース体を封止して当該遊技機用基板収容ケースを開封不可とする封止手段を備え、
前記封止手段は、
前記第１ケース体と前記第２ケース体とを合わせた状態での所定箇所に連通形成された係止穴を有する被封止部と、
前記被封止部の前記係止穴に挿入されて係止される挿入係止部と当該挿入係止部の挿入後端側に位置する頭部とを有する係止部材と、
前記被封止部の前記係止穴に前記係止部材を挿入して係止させた状態にて当該係止部材の前記頭部と前記被封止部との間であって当該頭部の少なくとも一部よりも挿入方向先端側に所定の間隙が形成された間隙部と、
前記被封止部の前記係止穴に前記係止部材を挿入して係止させた状態にて当該被封止部での前記係止部材の前記頭部の箇所に充填して前記間隙部にも回り込むようにした状態で硬化させた硬化樹脂と
を備えている
ことを特徴とする遊技機。
【０１９７】
前記（１１）に記載の発明によれば、遊技機用基板収容ケースは、第１ケース体と、この第１ケース体と合わされる第２ケース体とを備え、内部空間内に、遊技機についての所定の遊技に関する制御を司る制御基板を収容するものである。また、この遊技機用基板収容ケースは、その所定箇所に、制御基板が取り付けられた第１ケース体でのその制御基板取付面側に第２ケース体を合わせた状態で第１ケース体および第２ケース体を封止して当該遊技機用基板収容ケースを開封不可とする封止手段を備えている。そして、この封止手段は、第１ケース体と第２ケース体とを合わせた状態での所定箇所に連通形成された係止穴を有する被封止部と、この被封止部の係止穴に挿入されて係止される挿入係止部と当該

挿入係止部の挿入後端側に位置する頭部とを有する係止部材と、被封止部の係止穴に係止部材を挿入して係止させた状態にて当該係止部材の頭部と被封止部との間であって当該頭部の少なくとも一部よりも挿入方向先端側に所定の間隙が形成された間隙部と、被封止部の係止穴に係止部材を挿入して係止させた状態にて当該被封止部での係止部材の頭部の箇所に充填して間隙部にも回り込むようにした状態で硬化させた硬化樹脂とを備えている。よって、被封止部と係止部材の頭部とを、つまり、第１ケース体または第２ケース体と係止部材とを硬化樹脂で接着することができる。また、係止部材の頭部と被封止部との間の間隙部にも硬化樹脂が回り込んで接着されているので、例えば、封止手段の硬化樹脂を不正な細状部材を用いて除去しようとしても、係止部材の頭部の表側（手前側）の硬化樹脂の除去に時間がかかるし、この係止部材の頭部の裏側（奥側）つまり間隙部に回り込んだ硬化樹脂は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂を除去することはさらに困難であり、しかも間隙部の硬化樹脂で係止部材と被封止部とが接着された状態を維持しており、係止部材を取り外すことが困難である。したがって、遊技機用基板収容ケースを不正に開封することが困難である。その結果、不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０１９８】

（１２）　前記（１１）に記載の遊技機において、

前記被封止部は、前記係止穴の入口側周囲箇所に、前記係止部材が挿入係止された状態での前記頭部が位置する窪み空間を有するものであって、その窪み空間内に硬化前樹脂が充填される受容凹部を備え、

前記間隙部は、前記受容凹部の窪み面と前記係止部材の前記頭部の挿入側面との間に空けられた所定の間隙である

ことを特徴とする遊技機。

【０１９９】

前記（１２）に記載の発明によれば、被封止部での係止穴の入口側周囲箇所に設けられた受容凹部は、その窪み空間内に、係止部材が挿入係止された状態での当該係止部材の頭部を位置させた状態で、その窪み空間に硬化前樹脂が充填されて硬化されるので、受容凹部の窪み空間内に頭部を位置させた状態で硬化樹脂で覆うことができ、窪み空間の硬化樹脂を不正に除去することが困難である。また、間隙部は、受容凹部の窪み面と係止部材の頭部の挿入側面との間に空けられた所定の間隙であるので、受容凹部の窪み面と係止部材の頭部の挿入側面との間の間隙部にも硬化樹脂が回り込んで接着させることができ、例えば、封止手段の硬化樹脂を不正な細状部材を用いて除去しようとしても、受容凹部における係止部材の頭部の挿入面側（裏側）つまり間隙部に回り込んだ硬化樹脂は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂を除去することはさらに困難であり、しかも受容凹部における間隙部の硬化樹脂で係止部材と被封止部とが接着された状態を維持しており、係止部材を取り外すことが困難である。したがって、遊技機用基板収容ケースを不正に開封することが困難である。その結果、不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０２００】

（１３）　前記（１２）に記載の遊技機において、

前記係止部材の前記頭部は、その表側面に、硬化前樹脂が充填される受け皿部を備え、

前記受け皿部は、前記頭部の手前側から当該頭部の挿入方向先端側に貫通した、前記間隙部に繋がる流入孔を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０２０１】

前記（１３）に記載の発明によれば、係止部材の頭部は、その表側面に、硬化前樹脂が充填される受け皿部を備えている。この受け皿部は、頭部の手前側から当該頭部の挿入方向先端側に貫通した、前記間隙部に繋がる流入孔を備えている。したがって、被封止部の係止穴に係止部材を挿入して係止させた状態において、この係止部材の頭部の受け皿部に硬化前樹脂を充填することで、硬化前樹脂が受け皿部の流入孔を通じて頭部の挿入側面の方に流入して間隙部に回り込み易くでき、受容凹部の窪み面と係止部材の頭部の挿入側面

との間の間隙部にも硬化樹脂が回り込んで接着させることができ、間隙部に回り込んだ硬化樹脂は直接にアクセスできないことからこの硬化樹脂を除去することはさらに困難であり、不正行為を低減できる。

【０２０２】

（１４）　前記（１２）または（１３）に記載の遊技機において、

前記係止穴は、前記第１ケース体または前記第２ケース体の一方に形成された、前記挿入係止部よりも径の大きい貫通孔部と、前記第１ケース体または前記第２ケース体の他方に形成されて前記貫通孔部よりも直径が小さく且つ前記挿入係止部を係止する奥側穴部とを連通形成した二段穴である

ことを特徴とする遊技機。

【０２０３】

前記（１４）に記載の発明によれば、係止穴は、第１ケース体または第２ケース体の一方に形成された、挿入係止部よりも径の大きい貫通孔部と、第１ケース体または第２ケース体の他方に形成されて貫通孔部よりも直径が小さく且つ挿入係止部を係止する奥側穴部とを連通形成した二段穴であるので、被封止部の係止穴に係止部材を挿入して係止させた状態にてこの被封止部の受容凹部に充填した硬化前樹脂は、貫通孔部と挿入係止部との間にも流入して第１ケース体と第２ケース体と係止部材とに接触した状態で硬化させることができ、硬化樹脂は第１ケース体と第２ケース体と係止部材との３部材とを接着することができ、係止穴の貫通孔部にまで入り込んだ硬化樹脂を除去することはさらに困難であり、不正行為を低減できる。

【０２０４】

（１５）　前記（０）に記載の遊技機、または、前記（１１）から（１４）のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記係止部材の前記頭部は、前記硬化樹脂により前記被封止部に接着された脆弱部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０２０５】

前記（１５）に記載の発明によれば、係止部材の頭部は、硬化樹脂により被封止部に接着された脆弱部を備えているので、例えば、封止手段の硬化樹脂を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂の不正な除去に伴って係止部材の頭部の脆弱部が破壊され、その除去した硬化樹脂と一緒に脆弱部が取れてしまうので、この脆弱部が取れた係止部材を不正に再使用しても、その係止部材の頭部の脆弱部の破損を見ることで、遊技機用基板収容ケースが開封されたことがわかる。その結果、不正行為を低減できる遊技機を提供することができる。

【０２０６】

（１６）　前記（１５）に記載の遊技機において、

前記脆弱部は、前記係止部材の挿入方向とは異なる方向に前記頭部から延出した延出部である

ことを特徴とする遊技機。

【０２０７】

前記（１６）に記載の発明によれば、脆弱部は、係止部材の挿入方向とは異なる方向に頭部から延出した延出部としているので、その延出部の表面積の分だけ、頭部の硬化樹脂への接着面積を拡大することができ、その拡大した分、頭部と硬化樹脂との接着力が向上するので、硬化樹脂を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂の不正な除去に伴って係止部材の頭部の延出部が破壊され、その除去した硬化樹脂と一緒に延出部が取れてしまうので、この延出部が取れた係止部材を不正に再使用しても、その係止部材の頭部の延出部の破損を見ることで、遊技機用基板収容ケースが開封されたことがわかる。

【０２０８】

（１７）　前記（１５）に記載の遊技機において、

前記脆弱部は、前記係止部材の挿入方向とは異なる方向に前記頭部から複数本延出した

複数本の延出部である
ことを特徴とする遊技機。
【０２０９】
前記（１７）に記載の発明によれば、脆弱部は、係止部材の挿入方向とは異なる方向（例えば、直交する方向、斜め方向）に頭部から複数本延出した複数本の延出部としているので、その複数本の延出部の表面積の分だけ、頭部の硬化樹脂への接着面積を拡大することができ、その拡大した分、頭部と硬化樹脂との接着力が向上するので、硬化樹脂を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂の不正な除去に伴って係止部材の頭部の複数本の延出部のうちのいずれかの延出部が破壊され、その除去した硬化樹脂と一緒に一部の延出部が取れてしまうことになり、この延出部が取れた係止部材を不正に再使用しても、その係止部材の頭部の延出部の破損を見ることで、遊技機用基板収容ケースが開封されたことがわかる。
【０２１０】
（１８） 前記（１６）または（１７）に記載の遊技機において、
前記延出部は、その基端側に切り欠き溝部を備えている
ことを特徴とする遊技機。
【０２１１】
前記（１８）に記載の発明によれば、延出部は、その基端側に切り欠き溝部を備えているので、さらに、延出部の切り欠き溝部の表面積の分も、頭部の硬化樹脂への接着面積を拡大することができ、その拡大した分、頭部と硬化樹脂との接着力がさらに向上するし、その切り欠き溝部で延出部が破断し易くなっているので、硬化樹脂を不正な細状部材を用いて除去しようとすると、硬化樹脂の不正な除去に伴って係止部材の頭部の延出部が切り欠き溝部で破断して、その除去した硬化樹脂と一緒に延出部が取れてしまうので、この延出部が破断した係止部材を不正に再使用しても、その係止部材の頭部の延出部の破断を見ることで、遊技機用基板収容ケースが開封されたことがわかる。
【０２１２】
（１９） 前記（１１）から（１８）のいずれか一つに記載の遊技機において、
前記第１ケース体または前記第２ケース体は、前記封止手段の存する箇所での当該第１ケース体と第２ケース体との境界面を囲う囲い壁を備えている
ことを特徴とする遊技機。
【０２１３】
前記（１９）に記載の発明によれば、第１ケース体または第２ケース体の囲い壁によって、封止手段の存する箇所での当該第１ケース体と第２ケース体との境界面が囲われているので、当該境界面に不正な細状部材の挿入を困難とすることができ、当該境界面に不正な細状部材を挿入して封止手段の存する箇所での第１ケース体と第２ケース体とを引き離すことを困難とすることができる。また、第１ケース体または第２ケース体の囲い壁と、この囲い壁を有しない方の第１ケース体または第２ケース体との境目に不正な細状部材を挿入したとしても、囲い壁を反らす方向に力がかかるだけで、当該境界面を離す方向つまり係止部材が抜ける方向には力がかからないので、囲い壁に沿って無理矢理に不正な細状部材を挿入したとしても、封止手段の封止解除できない。その結果、不正開封を低減できる遊技機用基板収容ケースを用いた遊技機を提供することができる。
【０２１４】
（２０） 前記（１）から（１８）のいずれか一つに記載の遊技機において、
前記被封止部は、
前記第１ケース体または前記第２ケース体の一方に設けられた突出部と、
前記第１ケース体または前記第２ケース体のその他方に設けられた、前記第１ケース体と前記第２ケース体とを合わせた状態とすることで前記突出部が挿入される収容部と、
を備え、
前記係止穴は、前記突出部にその突出方向と直交する方向に貫通形成された貫通孔と、前記突出部が前記収容部に挿入された状態で前記貫通孔の一方の開口側に当該収容部に連

通形成された挿入穴部と、前記貫通孔の他方の開口側に当該収容部に連通形成された挿入貫通孔とで構成されている
ことを特徴とする遊技機。
【０２１５】
前記（２０）に記載の発明によれば、第１ケース体または第２ケース体の一方には、突出部が設けられている。第１ケース体または第２ケース体のその他方には、第１ケース体と第２ケース体とを合わせた状態とすることで突出部が挿入される収容部が設けられている。係止穴は、突出部にその突出方向と直交する方向に貫通形成された貫通孔と、突出部が収容部に挿入された状態で貫通孔の一方の開口側に当該収容部に連通形成された挿入穴部と、貫通孔の他方の開口側に当該収容部に連通形成された挿入貫通孔とで構成されている。したがって、封止手段の存する箇所での当該第１ケース体と第２ケース体との境界面が収容部で囲われているので、当該境界面に不正な細状部材の挿入を困難とすることができ、当該境界面に不正な細状部材を挿入して封止手段の存する箇所での第１ケース体と第２ケース体とを引き離すことを困難とすることができる。また、収容部以外での第１ケース体と第２ケース体との境目に不正な細状部材を挿入したとしても、突出部の突出方向に力がかかるだけで、当該境界面を離す方向つまり係止部材が抜ける方向には力がかからないので、収容部以外での第１ケース体と第２ケース体との境目に無理矢理に不正な細状部材を挿入したとしても、封止手段の封止解除できない。その結果、不正開封を低減できる遊技機用基板収容ケースを用いた遊技機を提供することができる。
【０２１６】
（２１）　前記（２０）に記載の遊技機において、
前記挿入貫通孔は、前記係止部材の前記挿入係止部よりも径が大きく、
前記突出部の前記貫通孔は、前記挿入貫通孔よりも直径が小さくなっている
ことを特徴とする遊技機。
【０２１７】
前記（２１）に記載の発明によれば、係止穴は、挿入貫通孔と突出部の貫通孔と挿入穴部とで構成されている。また、挿入貫通孔は、係止部材の挿入係止部よりも径が大きく、突出部の貫通孔は、挿入貫通孔よりも直径が小さくなっている。したがって、被封止部の係止穴に係止部材を挿入して係止させた状態にてこの被封止部での係止部材の頭部に充填した硬化前樹脂は、挿入貫通孔と挿入係止部との間にも流入して第１ケース体と第２ケース体と係止部材とに接触した状態で硬化させることができ、硬化樹脂は第１ケース体と第２ケース体と係止部材との３部材とを接着することができ、係止穴の挿入貫通孔にまで入り込んだ硬化樹脂を除去することはさらに困難であり、不正行為を低減できる。
【０２１８】
（２２）　前記（１１）から（２１）のいずれか一つに記載の遊技機において、
前記遊技機用基板収容ケースは、前記制御基板が取り付けられた前記第１ケース体でのその制御基板取付面側に前記第２ケース体を合わせた状態で前記第１ケース体または前記第２ケース体の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることで前記第１ケース体と前記第２ケース体とを係止する係止手段を備え、
前記封止手段は、前記係止手段によって係止状態とされた前記第１ケース体および前記第２ケース体を開封不可に封止する
ことを特徴とする遊技機。
【０２１９】
前記（２２）に記載の発明によれば、遊技機用基板収容ケースの係止手段は、制御基板が取り付けられた第１ケース体でのその制御基板取付面側に第２ケース体を合わせた状態で第１ケース体または第２ケース体の少なくとも一方を当該合わせ面所定方向にスライド移動させることで、第１ケース体と第２ケース体とを係止する。封止手段は、係止手段によって係止状態とされた第１ケース体および第２ケース体を開封不可に封止する。したがって、封止手段によって第１ケース体および第２ケース体が開封不可に封止されているので、遊技機用基板収容ケースが不正に開封されることを低減できる。また、この封止状態

では、係止手段によって第１ケース体および第２ケース体がスライド係止されており、第１ケース体および第２ケース体をスライド方向に直交する対向方向に開けることができず、遊技機用基板収容ケースが不正に開封されることを低減できる。

【０２２０】

（２３）　前記（２２）に記載の遊技機において、

前記係止手段は、

前記第１ケース体または前記第２ケース体の一方のケース体での前記スライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された複数個の鉤状突起部と、

前記第１ケース体または前記第２ケース体の他方のケース体での前記スライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された、前記鉤状突起部とは逆向きに形成された複数個の逆鉤状突起部とを備えるとともに、

前記第１ケース体または前記第２ケース体の少なくとも一方を前記スライド移動させることで前記鉤状突起部と前記逆鉤状突起部とが係止する

ことを特徴とする遊技機。

【０２２１】

前記（２３）に記載の発明によれば、遊技機用基板収容ケースの係止手段は、第１ケース体または第２ケース体の一方のケース体でのスライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された複数個の鉤状突起部と、第１ケース体または第２ケース体の他方のケース体でのスライド方向に平行な両辺箇所にその辺方向に並設された、鉤状突起部とは逆向きに形成された複数個の逆鉤状突起部とを備えるとともに、第１ケース体または第２ケース体の少なくとも一方をスライド移動させることで鉤状突起部と逆鉤状突起部とが係止するので、封止手段によって第１ケース体および第２ケース体が開封不可に封止された封止状態では、第１ケース体または第２ケース体の両辺で所定長さに亘って配置された複数個の鉤状突起部および逆鉤状突起部でスライド係止されており、細状の不正具を第１ケース体と第２ケース体との間に挿し入れるなどして第１ケース体と第２ケース体との間に隙間を開けたり、第１ケース体および第２ケース体を開けたりすることを低減でき、遊技機用基板収容ケースが不正に隙間形成や開封されることを低減できる。

【０２２２】

（２４）　前記（２３）に記載の遊技機用基板収容ケースにおいて、

前記封止手段は、前記第１ケース体および前記第２ケース体をそのスライド移動を抑止するように固定するものであり、

さらに、前記封止手段は、前記第１ケース体および前記第２ケース体のスライド移動不可状態を解除するべく破壊される固定解除用被破壊部を備えている

ことを特徴とする遊技機。

【０２２３】

前記（２４）に記載の発明によれば、封止手段は、第１ケース体および第２ケース体を、そのスライド移動を抑止するように固定する。さらに、この封止手段の固定解除用被破壊部が破壊されると、第１ケース体および第２ケース体のスライド移動不可状態が解除される。したがって、固定解除用被破壊部の破壊痕を見ることで、遊技機用基板収容ケースが開封されたことがわかる。

【０２２４】

（２５）　前記（２４）に記載の遊技機用基板収容ケースにおいて、

前記固定解除用被破壊部は、前記第１ケース体または前記第２ケース体の少なくとも一方と前記封止手段とを結ぶ連結部である

ことを特徴とする遊技機。

【０２２５】

前記（２５）に記載の発明によれば、固定解除用被破壊部は、第１ケース体または第２ケース体の少なくとも一方と封止手段とを結ぶ連結部としているので、連結部を破断することで、第１ケース体と第２ケース体との相対的なスライド移動を可能とすることができ、第１ケース体と第２ケース体とを開封できる。なお、封止手段が第１ケース体または第

２ケース体の方に残ったままであるため、当該破断痕によって開封があったことがわかる。

【０２２６】

（２６）　前記（０）に記載の遊技機、または、前記（１）から（２５）のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記遊技機はパチンコ機であることを特徴とする遊技機。

【０２２７】

前記（２６）に記載の遊技機によれば、結束バンドを使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機や、不正行為を低減できるパチンコ機を提供できる。なお、パチンコ機の基本構成としては操作ハンドルを備え、その操作ハンドルの操作に応じて遊技用媒体としての球を所定の遊技領域に発射し、球が遊技領域内の所定の位置に配設された作動口に入賞（または作動ゲートを通過）することを必要条件として、表示装置において動的表示されている識別情報（図柄等）が所定時間後に確定停止されるものが挙げられる。また、特別遊技状態の発生時には、遊技領域内の所定の位置に配設された可変入賞手段（特定入賞口）が所定の態様で開放されて球を入賞可能とし、その入賞個数に応じた有価価値（景品球のみならず、磁気カードへ書き込まれるデータ等も含む）が付与されるものが挙げられる。

【０２２８】

（２７）　前記（０）に記載の遊技機、または、前記（１）から（２５）のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記遊技機はスロットマシンであることを特徴とする遊技機。

【０２２９】

前記（２７）に記載の遊技機によれば、結束バンドを使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機や、不正行為を低減できるスロットマシンを提供できる。なお、スロットマシンの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する可変表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、あるいは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備えた遊技機」となる。この場合、遊技用媒体はコイン、メダル等が代表例として挙げられる。

【０２３０】

（２８）　前記（０）に記載の遊技機、または、前記（１）から（２５）のいずれか一つに記載の遊技機において、

前記遊技機はパチンコ機とスロットマシンとを融合させたものであることを特徴とする遊技機。

【０２３１】

前記（２８）に記載の遊技機によれば、結束バンドを使用して封印する際の作業性を向上させることができる遊技機や、不正行為を低減できる、パチンコ機とスロットマシンとを融合させたものを提供できる。なお、この融合させたものの基本構成としては、「複数の識別情報からなる識別情報列を動的表示した後に識別情報を確定表示する識別情報変動表示手段を備え、始動用操作手段（例えば操作レバー）の操作に起因して識別情報の動的表示が開始され、停止用操作手段（例えばストップボタン）の操作に起因して、あるいは、所定時間経過することにより、識別情報の動的表示が停止され、その停止時の確定識別情報が特定識別情報であることを必要条件として、遊技者に有利な特別遊技状態を発生させる特別遊技状態発生手段とを備え、遊技用媒体として球を使用するとともに、前記識別情報の動的表示の開始に際しては所定数の球を必要とし、特別遊技状態の発生に際しては多くの球が払い出されるように構成されている遊技機」となる。

【０２３２】

なお、本明細書に開示する種々の発明に関して、全ての構成要素について種々の組み合

わせが可能であり、他の構成要件がなくても単独で発明として成立する点に留意されたい。

【産業上の利用可能性】

【０２３３】

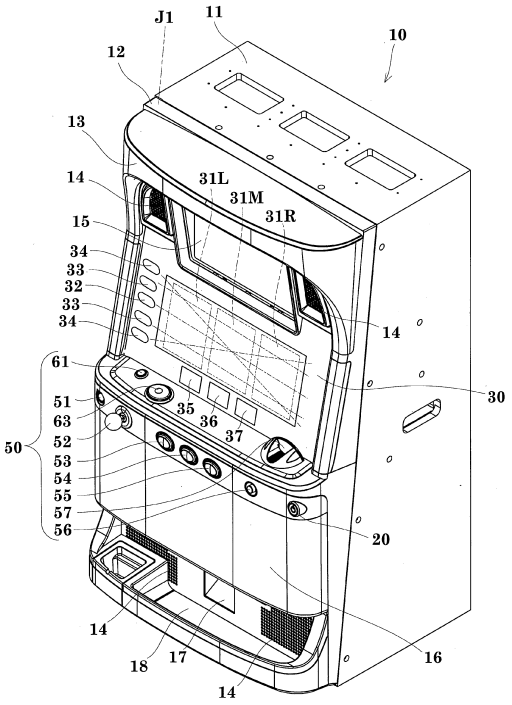
以上のように、この発明は、パチンコ機やスロットマシン等の遊技機に適している。

【符号の説明】

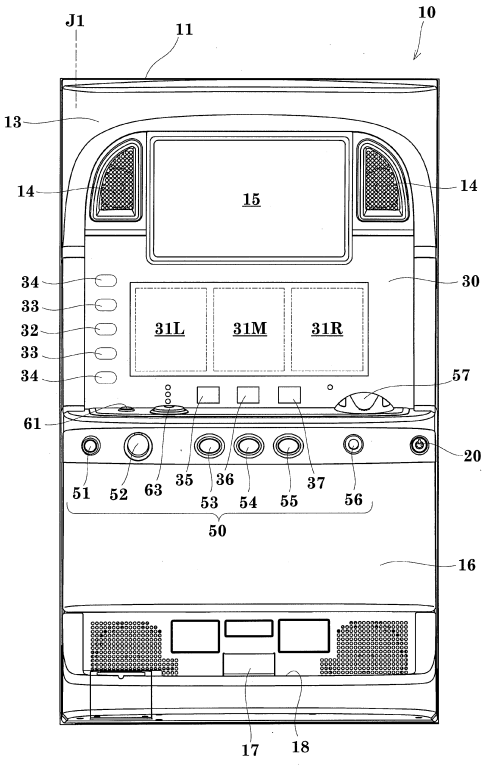
【０２３４】

７１　…ケース上（第１部材）
７１ｊ…鉤状部（被係止部）
７２　…ケース下
７３　…主制御基板（制御基板）
７４　…基板ケース（第１部材、遊技機用基板収容ケース）
７７　…コネクタカバー（第２部材）
７８　…支持部
２３０　…結束バンド
２３１　…係止孔
２３２　…頭部
２３３　…延出部
２３４　…係止部

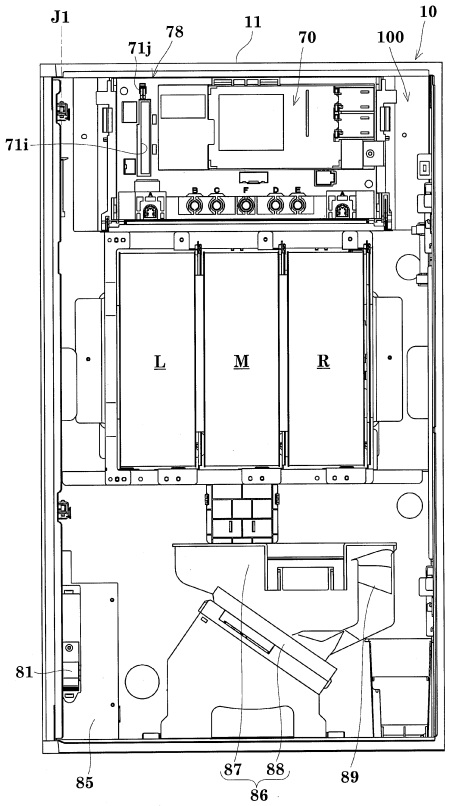
【図１】



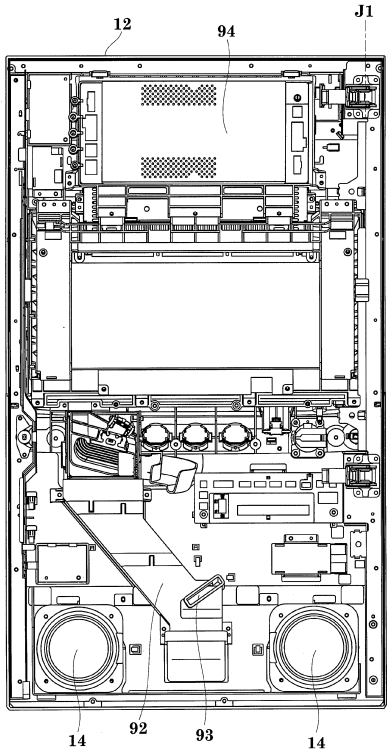
【図２】



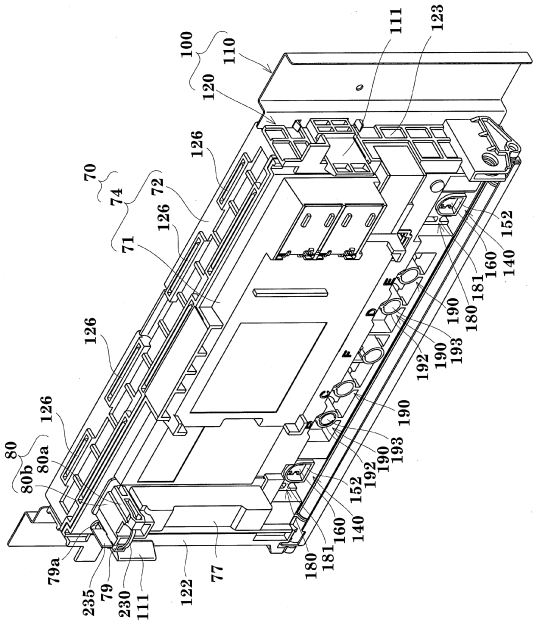
【図３】


J1
71j
78
11
70
100
10
71i
L
M
R
81
85
87
88
86
89

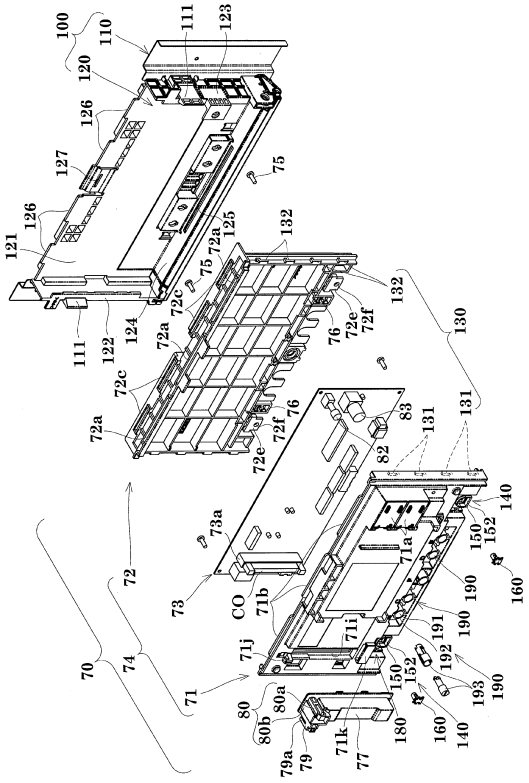
【図４】


12
94
J1
14
92
93
14

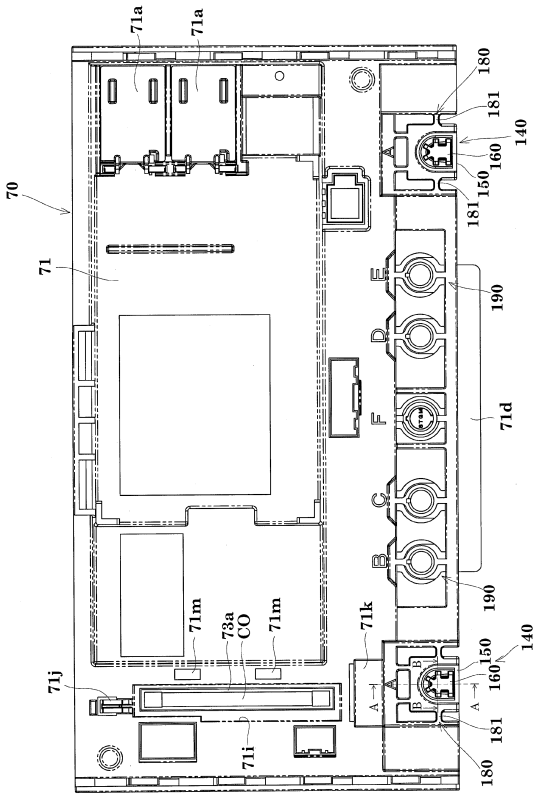
【図５】


100
110
120
111
123
126
70
74
72
71
152
160
140
181
190
180
193
192
80
80a
80b
79a
235
79
230
111
122
77

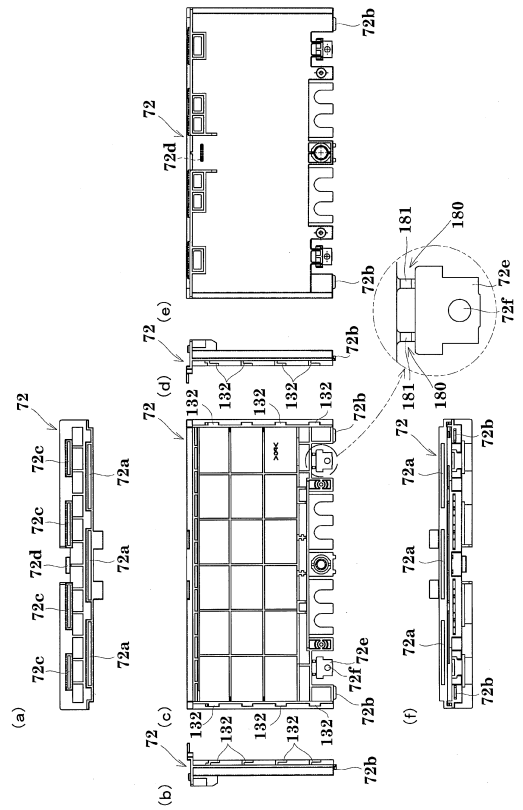
【図６】


100
110
111
123
120
126
127
75
121
125
132
72a
72c
124
122
76
72e
72f
130
131
83
82
140
150
152
160
73a
73
CO
71b
71a
71i
71j
71k
70
74
72
71
80
80a
80b
79a
79
77
180
190
191
192
193

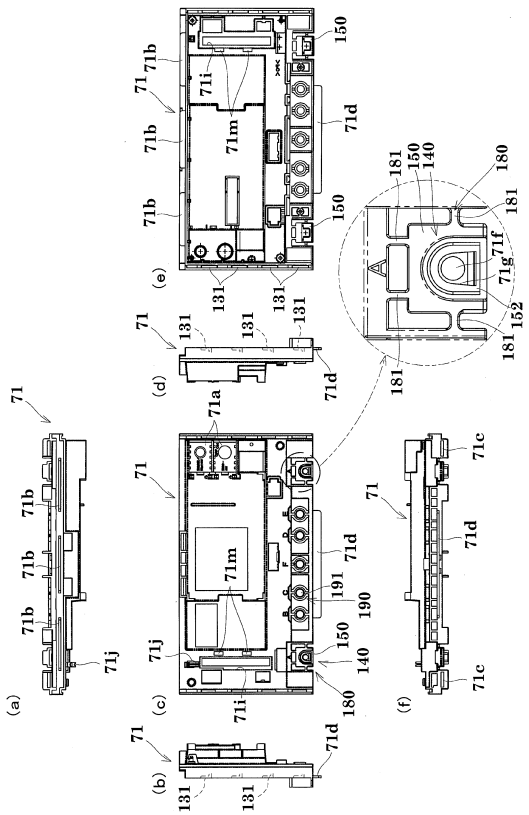
【図７】


70
71
71a
71a
180
181
140
160
150
181
190
71d
71m
73a
CO
71m
71k
71j
71i
180
181
150
160
140
190
A
B
C
D
E
F

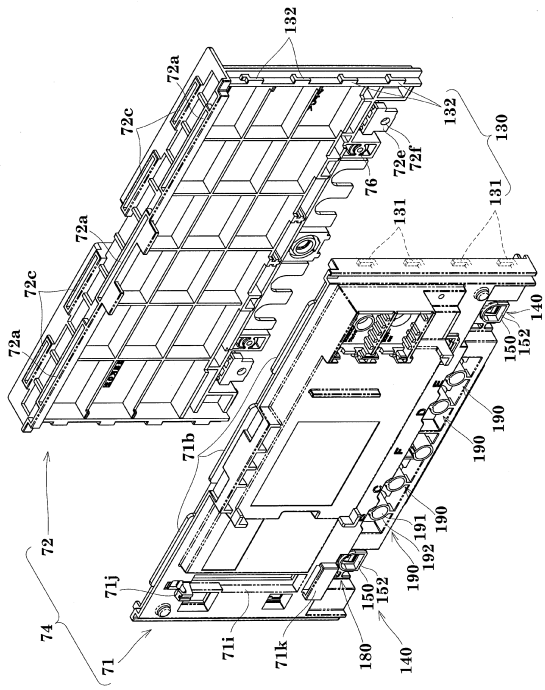
【図８】


72
72b
72d
72a
72c
72e
72f
181
180
132
(a)
(b)
(c)
(d)
(e)
(f)

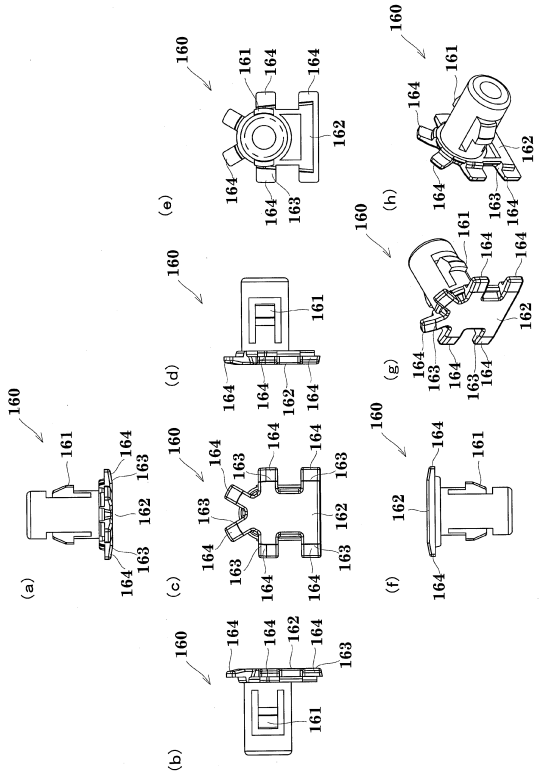
【図９】


71
71a
71b
71i
71m
71d
71j
71k
71c
150
140
180
181
191
190
131
(a)
(b)
(c)
(d)
(e)
(f)

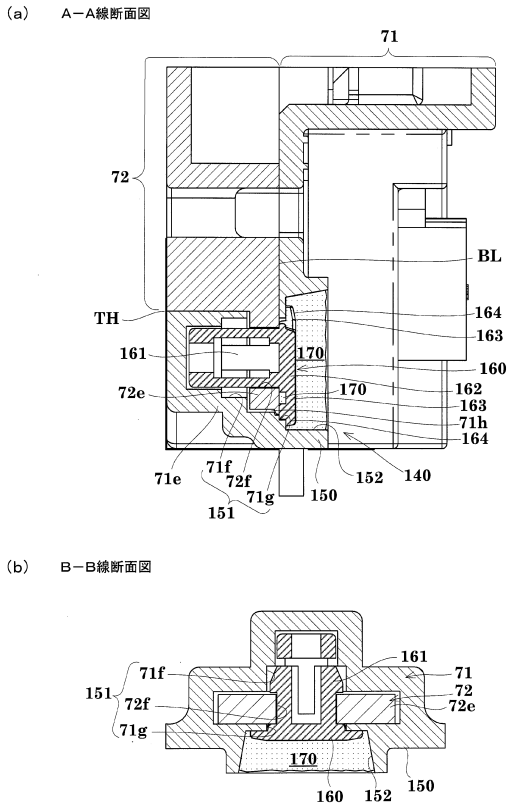
【図１０】


72
72a
72c
132
130
72e
72f
76
131
140
150
152
190
191
192
71
71b
71j
71i
71k
74
180

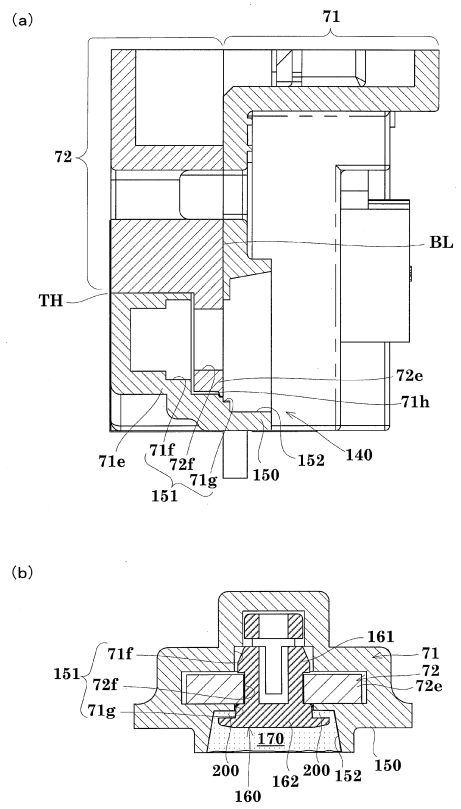
【図１１】



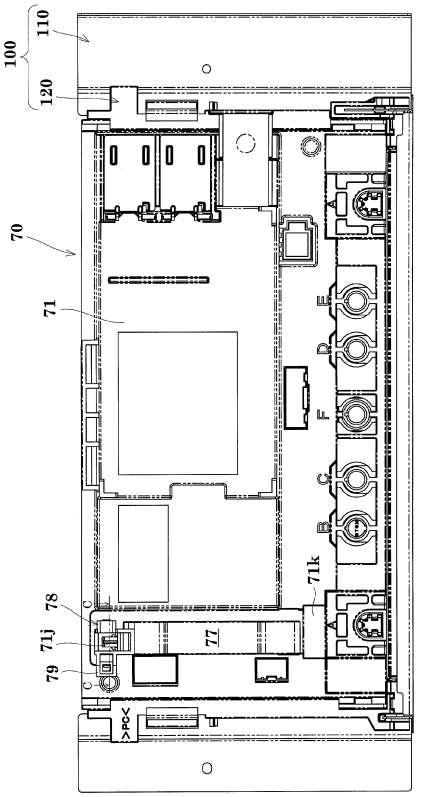
【図１２】



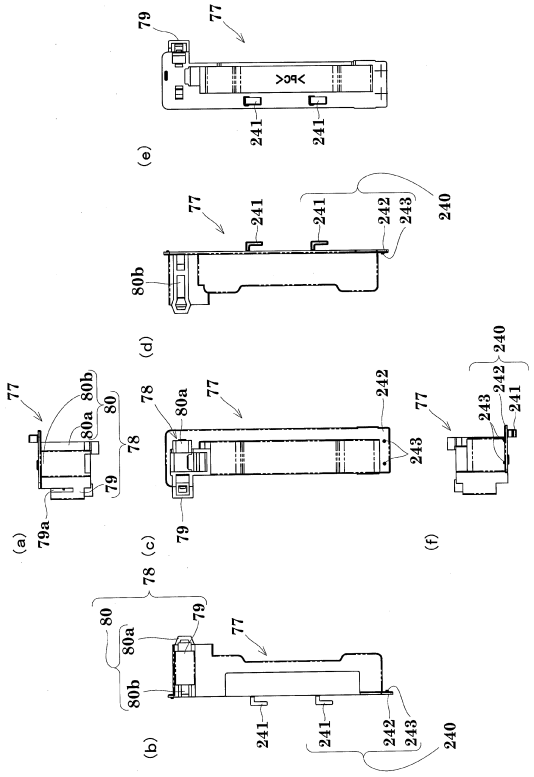
【図１３】



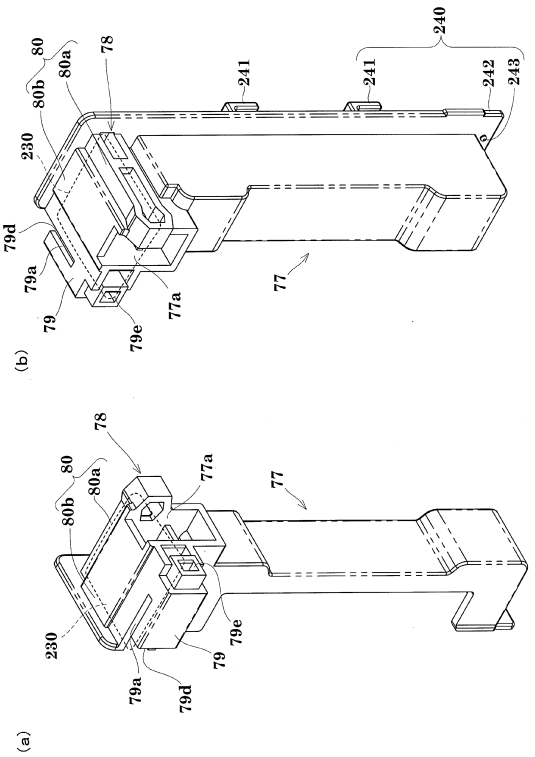
【図１４】



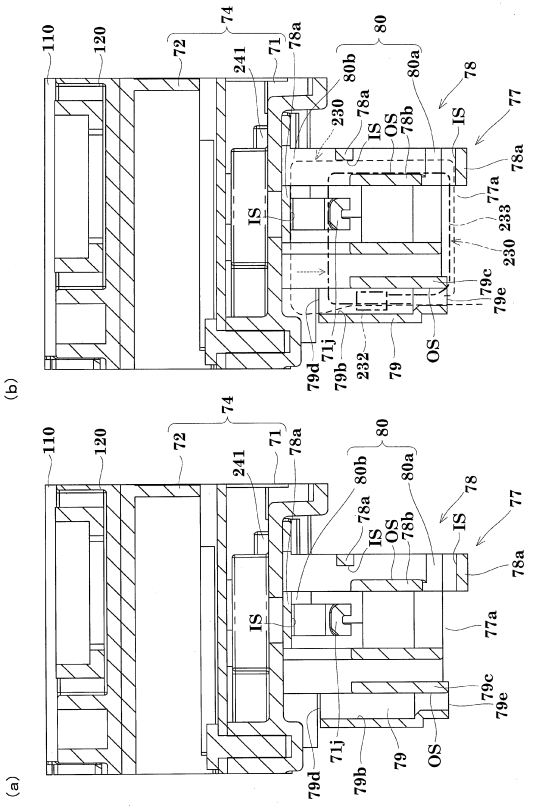
【図１５】



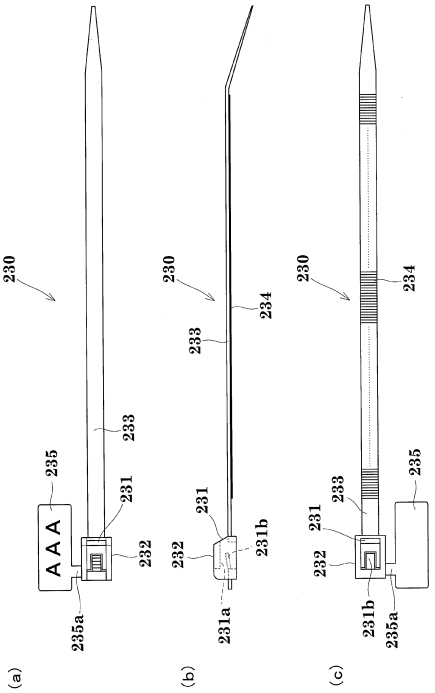
【図１６】



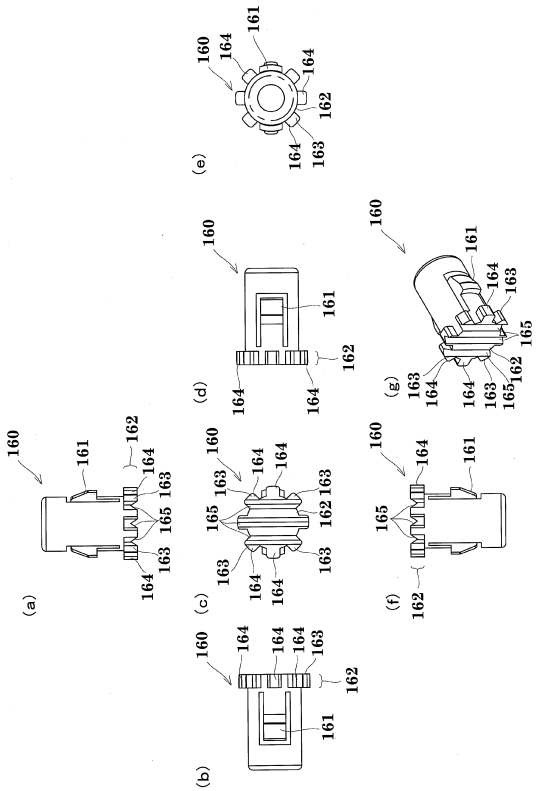
【図１７】



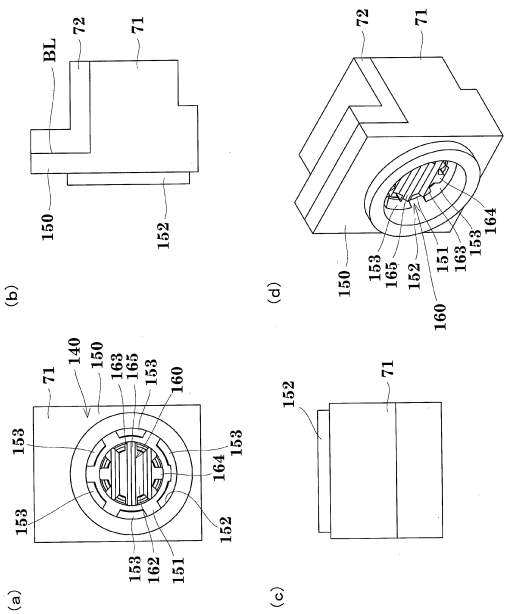
【図１８】



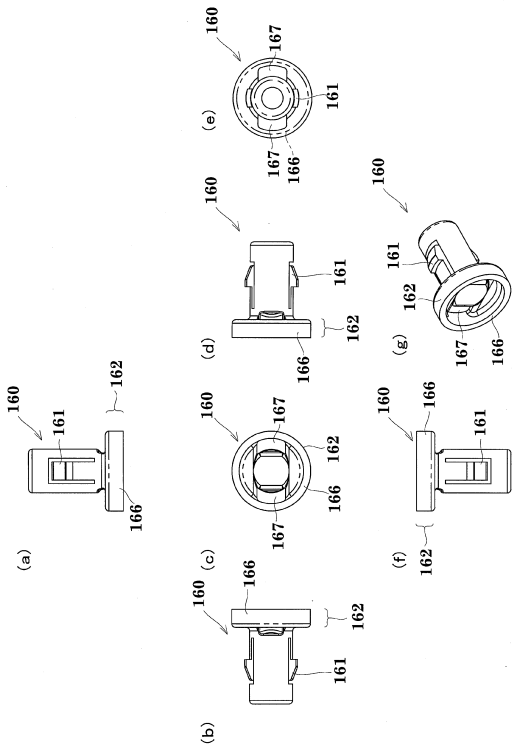
【図１９】



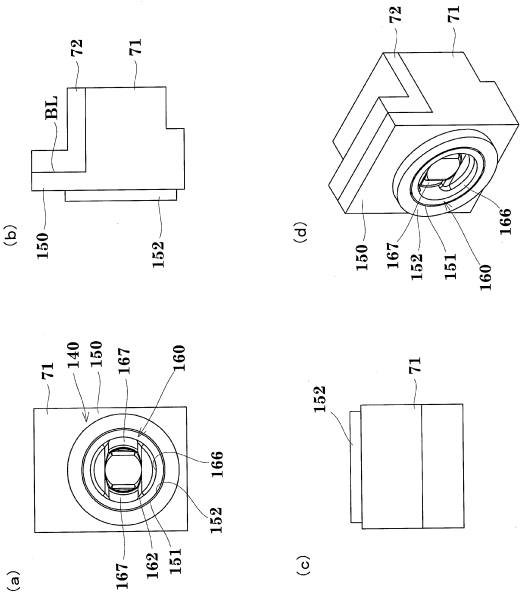
【図２０】



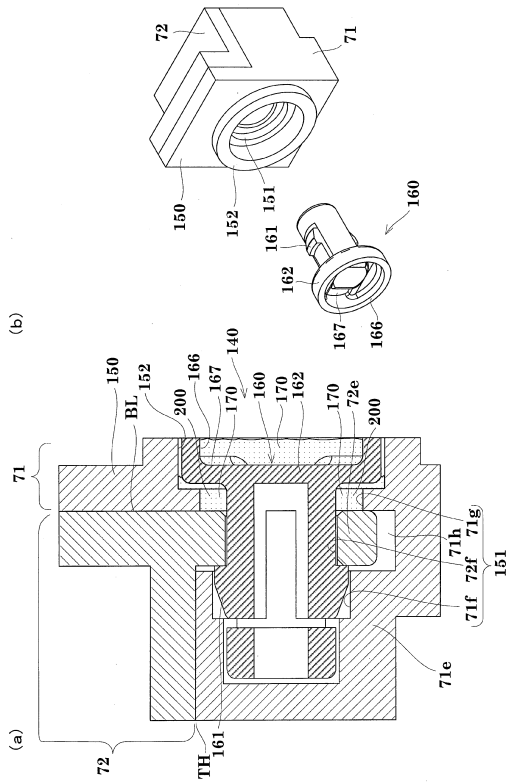
【図２１】



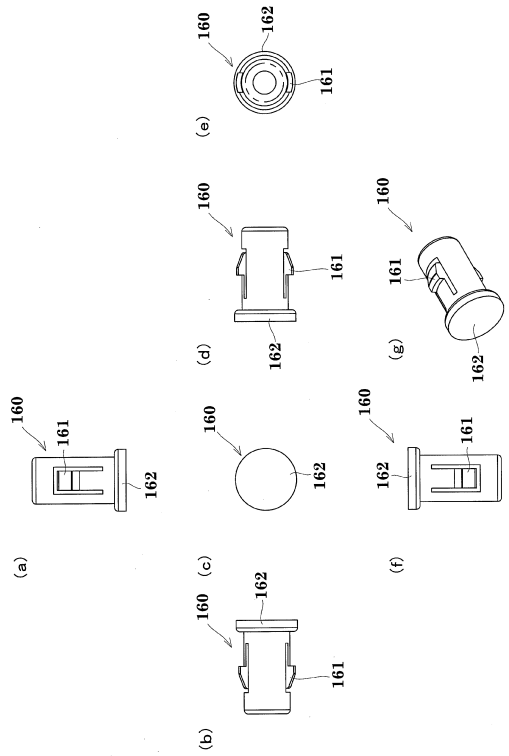
【図２２】



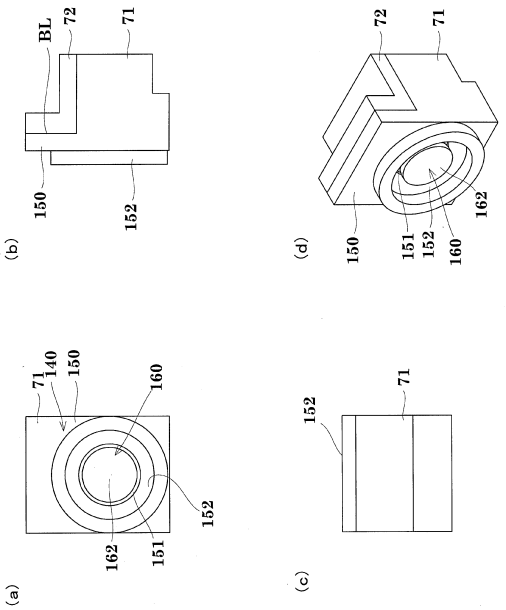
【図２３】



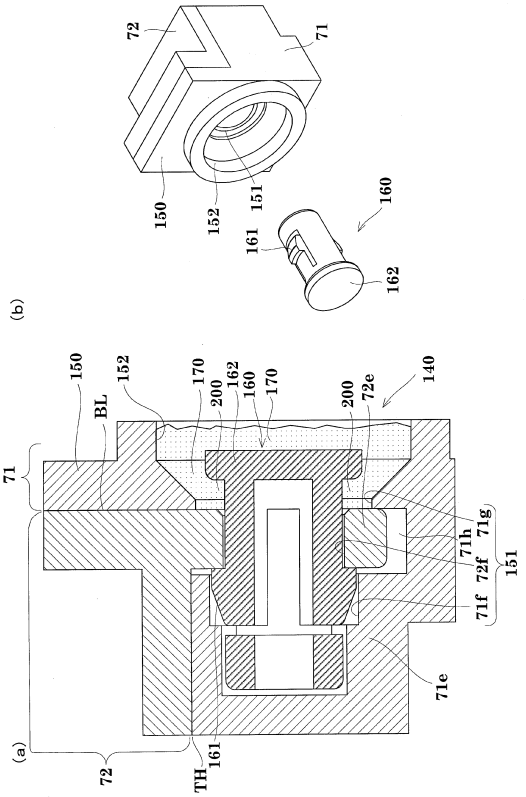
【図２４】



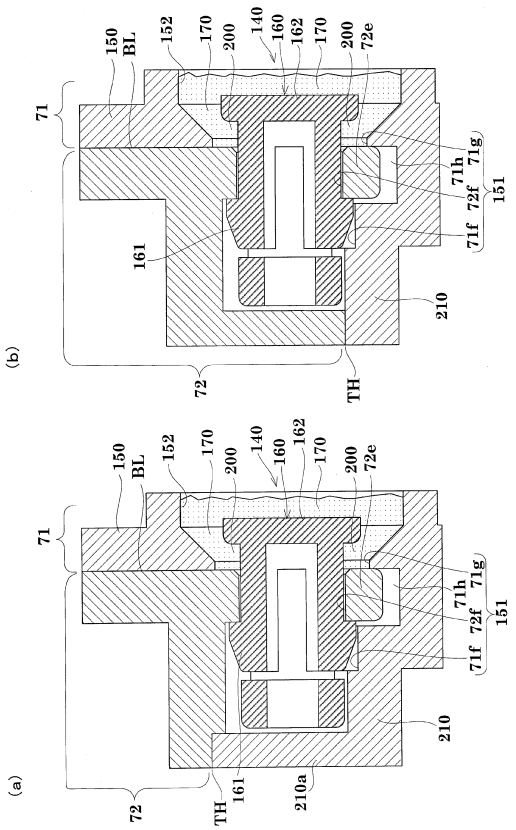
【図２５】



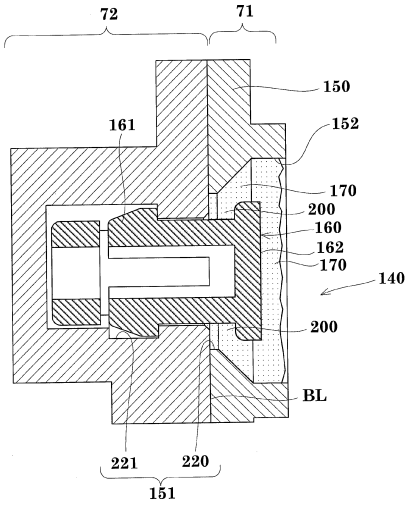
【図２６】



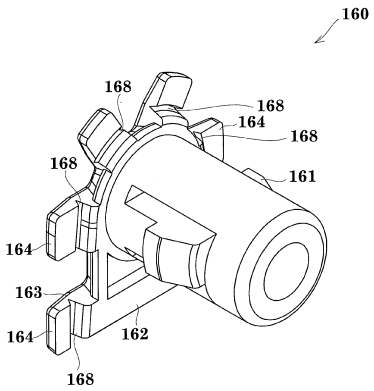
【図２７】


(b)
(a)
150
BL
152
170
200
140
160
162
72e
71
71h
71g
72f
71f
151
161
210
72
TH
210a

【図２８】


72
71
150
161
152
170
200
160
162
140
BL
221
220
151

【図２９】


160
168
164
163
162

フロントページの続き

審査官　▲高▼木　尚哉

(56)参考文献　特開平１１－１２８４９９（ＪＰ，Ａ）
特開２００２－０００８７７（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ａ６３Ｆ　　７／０２